

第三十二回 帝國議會 貴族院議事速記録第十七號

大正三年三月二十日(金曜日)

午前十時五分開議

議事日程 第十七號 大正三年三月二十日

午前十時開議

第一 肺結核療養所ノ設置及國庫補助ニ關スル法律案

第一 第一讀會

第二 取引所法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第三 取引所稅法改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第四 營業稅法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第五 相續稅法中改正法律案(政府提出、衆議院送付)

第六 大嘗祭齋田ノ土地免租ニ關スル法律案(政府提出、衆議院送付)

第七 明治四十四年度歲入歲出總決算、明治四十四年度各特別會計歲入歲出決算報告並決議案(一件)

第八 印紙稅法中改正法律案(衆議院提出)

第九 印紙稅法中改正法律案(衆議院提出)

第十 運河法中改正法律案(衆議院提出)

第十一 明治三十七八年戰役ノ爲損害ヲ被リタル者ノ救恤ニ關スル法律案(衆議院提出)

第十二 國有土地森林原野下戻法中改正法律案(衆議院提出)

第十三 不動産登記法中改正法律案(衆議院提出)

第十四 織物消費稅法中改正法律案(衆議院提出)

第十五 通行稅法中改正法律案(衆議院提出)

第十六 公共團體ノ管理スル公共用土地物件ノ使用ニ關スル法律案(衆議院提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

○議長(公爵德川家達君) 一昨十八日故衆議院議長長谷場純孝君ノ葬儀ニ付過グル十六日ノ會議ニ於ケル本院ノ議決ニ基キマシテ、議長ハ議院ヲ代表イタシマシテ會葬ヲ致シマシタ、此段御報告ニ及ビマス

○議長(公爵德川家達君) 村田保君本院議員ヲ辭任セラレマシタ結果、第五部ニ理事ノ闕員ヲ生ジマシタ、其部ニ於テ是ガ補闕選舉ヲ行ハレムコトヲ望ミマス

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致サセマス

[河井書記官朗讀]

一昨十八日本院ニ於テ修正議決シタル左ノ政府提出案ハ即日之ヲ衆議院ニ回付セリ

地方學事通則改正法律案

同日本院ニ於テ可決シタル左ノ衆議院提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

土地收用法中改正法律案

同日本院ニ於テ否決シタル左ノ衆議院提出案ハ第二讀會ヲ開カサルコトヲ議決シタル旨ヲ衆議院ニ通知セリ

盲人保護法案

同日特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

大嘗祭齋田ノ土地免租ニ關スル法律案特別委員會

委員長 伯爵正親町實正君 副委員長 男爵岡内重俊君

賣藥法案特別委員會

委員長 伯爵林博太郎君 副委員長 子爵吉田清風君

畜產組合法案特別委員會

委員長 伯爵松平直之君 副委員長 和田彦次郎君

輕便鐵道補助法中改正法律案特別委員會

委員長 古市公威君 副委員長 男爵真田幸世君

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

通行稅法中改正法律案否決報告書

織物消費稅法中改正法律案否決報告書

大嘗祭齋田ノ土地免租ニ關スル法律案可決報告書

公共團體ノ管理スル公共用土地物件ノ使用ニ關スル法律案可決報告書

營業稅法中改正法律案修正報告書

請願委員會特別報告第七號

請願文書表第九回報告書

昨十九日特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

耕地整理法中改正法律案外一件特別委員會

委員長 子爵鍋島 直彬君 副委員長 子爵一柳 末德君

日本勸業銀行法中改正法律案外一件特別委員會

委員長 伯爵德川 達孝君 副委員長 男爵坪 井 九八郎君

同日特別委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

地租條例中改正法律案(衆第一號)可決報告書

國稅徵收法中改正法律案可決報告書

醫師法中改正法律案可決報告書

關稅定率法中改正法律案可決報告書

輕便鐵道補助法中改正法律案修正報告書

賣藥法案可決報告書

府縣制中改正法律案可決報告書

郡制廢止法律案否決報告書

同日特別委員副委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

戶籍法改正法律案可決報告書

明治三十八年法律第六十二號中改正法律案可決報告書

寄留法案可決報告書

同日特別委員副委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

明治四十三年法律第三十九號中改正法律案可決報告書

裁判所構成法中改正法律案

辯護士法中改正法律案

同日衆議院ヨリ左ノ法律案ヲ提出セリ

市制中改正法律案

町村制中改正法律案

同日衆議院ヨリ本院ノ回付ニ係ル左ノ政府提案ハ本院ノ議決ニ同意シ奏上セル旨ノ通牒ヲ受領セリ

地方學事通則改正法律案

同日兩院協議委員議長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

大正三年度歲入歲出總豫算案兩院協議會成案成立報告書

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス

○子爵鍋島直彬君 本員ハ是ヨリ議長ノ許ヲ得マシテ、耕地整理法中改正法律案ノ委員會ヲ開キタイト考ヘマス、此段御許ヲ願ヒマス

○議長(公爵德川家達君) 鍋島子爵ノ特別委員會ヘ退席ノ要求ハ許可シテ御

異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第一、肺結核療養所ノ設置及國庫補助ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

〔左ノ送付文及議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

肺結核療養所ノ設置及國庫補助ニ關スル法律案

右政府提案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正三年三月十七日

衆議院議長奧繁三郎

貴族院議長公爵德川家達殿

肺結核療養所ノ設置及國庫補助ニ關スル法律案

第一條 主務大臣ハ肺結核豫防上必要アリト認ムルトキハ肺結核患者ニシテ療養ノ途ナキ者ヲ收容セシムル爲人口三十萬以上ノ市ニ對シ療養所ノ設置ヲ命スルコトヲ得

國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前項療養所ニ關シ市ノ支出スル經費ノ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助ス

第二條 公共團體又ハ公益法人ニシテ肺結核療養所ヲ經營スル者ニ對シテハ國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條第二項ノ範圍内ニ於テ其ノ經費ヲ補

ハ國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條第二項ノ範圍内ニ於テ其ノ經費ヲ補

ハ國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條第二項ノ範圍内ニ於テ其ノ經費ヲ補

ハ國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條第二項ノ範圍内ニ於テ其ノ經費ヲ補

ハ國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條第二項ノ範圍内ニ於テ其ノ經費ヲ補

ハ國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條第二項ノ範圍内ニ於テ其ノ經費ヲ補

ハ國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條第二項ノ範圍内ニ於テ其ノ經費ヲ補

ハ國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條第二項ノ範圍内ニ於テ其ノ經費ヲ補

ハ國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條第二項ノ範圍内ニ於テ其ノ經費ヲ補

助スルコトヲ得

第三條 肺結核療養所ヲ設置シタル公共團體ニシテ本法ノ補助ヲ受ケタル者ハ他ノ公共團體ノ委託アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ療養ノ途ナキ肺結核患者ヲ其ノ療養所ニ收容スヘシ

附 則

本法ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員水野鍊太郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(水野鍊太郎君) 唯今議題ニ上リマシタ肺結核療養所ノ設置及國庫補助ニ關スル法律案ノ大要ヲ説明イタシマス、肺結核病ハ累年其數ヲ増シツツアリマシテ、國家衛生上誠ニ憂慮スベキ狀態デアアルデアリマス、之ヲ以チマシテ政府ニ於キマシテモ、此病氣ノ豫防並ニ療養ニ關シマシテハ常ニ意ヲ用キテ居リマシテ、此病氣ノ少クナルコトヲ經畫シツツアルデアリマス、之ヲ以チマシテ肉若クハ乳ヨリ來ル結核ノ危險ニ對シテハ、畜牛結核豫防法ガアルデアリマス、又肺結核ノ豫防上ニ最モ緊要ナル咯痰ノ取締ニ付キマシテハ、御承知ノ通り肺結核豫防ニ關スル省令ガアルデアリマス、其他公衆ノ肺結核豫防思想ノ普及ヲ喚起スル爲ニ屢、訓令ヲ發シ、又地方長官ヲシテソレトシテ施設セシムル所モアルデアリマス、併ナガラ未ダ十分ナル效果ヲ得ルコト能ハザルヲ遺憾トスルデアリマス、而シテ申スマデモナク、肺結核病ノ最モ多イノハ大都市デアリマス、ソレデアリマスカラシテ、大都市ニ於ケル何等カノ施設ヲナスノ必要ナルコトハ、今日最モ其急ヲ感ジテ居ルデアリマス、左様ナル次第デアリマスカラシテ、此度此法案ヲ提出イタシマシテ、人口三十万以上ヲ有スル都市ニ於キマシテハ、肺結核病ニ罹ッテ居ル者ニシテ、療養ノ途ナキ者ヲ收容セシムル爲ニ、療養所ノ設置ヲ命ズル案ヲ提出シタ次第デアリマス、併ナガラ大都市ハ費用ガソレトシテ多イデアリマスカラシテ、此自治體ノ費用ノミヲ以テ之ヲ經營セシムルト云フコトハ極メテ困難ノ事デアラウト考ヘマシテ、斯ノ如キ療養所ノ設置ヲ命ジ、若クハ自ラ療養所ヲ經營スル者ニ對シマシテハ、國庫カラシテ相當ノ補助ヲ與ヘル途ヲ開ク必要ヲ認メマシタデアリマス、斯ク致シマシテ國並ニ公共團體ガ相俟ッテ斯ル經營ヲナシマシタナラバ、肺結核病ノ豫防ニ資シ、又其數ヲ幾分ナリトモ少クスルコトヲ得ルカノ望ガアルデアリマス、斯ノ如キ次第ヲ以チマシテ此法案ヲ提出シタ所以デアリマス、何卒御審査ノ上、御協賛アラムコ

トヲ希望イタシマス

○男爵小澤武雄君 チョット政府ニ御尋ラスルデアリマスガ、第二條ニハ「公共團體又ハ公益法人ニシテ肺結核療養所ヲ經營スル者ニ對シテハ國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條第二項ノ範圍内ニ於テ其經費ヲ補助スルコトヲ得」ト云フコトガアリマスガ、然ルニ第三條ニハ「公共團體ニシテ本法ノ補助ヲ受ケタル者ハ他ノ公共團體ノ委託アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ療養ノ途ナキ肺結核患者ヲ其ノ療養所ニ收容スヘシ」ト云フコトニナッテ居リマス、私ノ御尋スルノハ、公共團體モ、公益法人ニシテ經營スル者モ、補助ハ同一デアッテ、三條ノ方ハ公共團體ノ委託ヲ受ケルコトニナッテ居リマスガ、其理由ハドウ云フコトデアリマスルカ、ソレヲチョット御尋ヲ致シマス

〔政府委員水野鍊太郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(水野鍊太郎君) 御答ヲ致シマス、唯今ノ御尋ハ公共團體ニ對シテハ、第三條ニ依テ肺結核患者ヲ其療養所ニ收容スベキ規定ガアリマスガ、公益法人ニハ其規定ガナイノハ、ドウ云フ理由デアアルカト云フ御尋デアリマスガ、是ハ公共團體ト公益法人トノ性質ノ異ナル所ヨリ出テ居ル譯デアリマス、申スマデモナク、公共團體ハ市町村縣等ノ如キモノデアリマスルガ、是等ノ團體ニ對シテハ、他ノ委託ガアリマシタ時ハ、其收容ヲ強制スル理由モアリ、又強制スルコトガ適當デアラウト考ヘマスガ、公益法人ハ謂ハユル民法ニ依テ出來テ居ル所ノ私人……私法人デアリマスカラシテ、是等ニ對シテ斯ノ如キ強制ヲ用キルハ適當ニアラズト考ヘマシテ、第三條ニ於キマシテ公共團體ノミニ適用スル規定ヲ設ケタ次第デアリマス

○議長(公爵德川家達君) 別ニ御質問モナイヤウデゴザイマスカラ特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス

〔東久世書記官朗讀〕

肺結核療養所ノ設置及國庫補助ニ關スル法律案特別委員

- 伯爵吉井 幸藏君 男爵野村 素介君 子爵舟橋 遂賢君
- 男爵小澤 武雄君 男爵石黒 忠惠君 三宅 秀君
- 山田 春三君 木場 貞長君 兒玉 淳一郎君

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第二、取引所法中改正法律案、政府提出衆議院送付、第一讀會

取引所法中改正法律案  
右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正三年三月十七日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長奥繁三郎

〔小字ハ衆議院ノ修正ニ依リ同削除ノ符號、以下之ニ依リ〕

取引所法中改正法律案

取引所法中左ノ通改正ス

第八條中「指圖式ノ倉荷證書」及「倉荷證書」ヲ「預證券、質入證券又ハ倉荷證券」ニ改ム

第十條 取引所ノ營業部類ニ屬スル商業ニ從事スル商人ハ定款ノ規定ニ從ヒ其ノ取引所ノ會員トナルコトヲ得

取引所ノ仲買人トナラムトスル者ハ政府ノ免許ヲ受クヘシ

第十一條第二項及第三項ヲ左ノ如ク改ム  
婦女、未成年者、復權セサル家資分散者及破産者並本法ニ依リ除名セラレ除名ノ日ヨリ五箇年ヲ經過セサル者ハ會員トナルコトヲ得ス

懲役若ハ重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレタル者又ハ刑法第二編第十六章乃至第十九章第二十三章第三十五章乃至第三十九章、舊刑法第二編第四章第一節乃至第五節第二百六十條乃至第二百六十二條第八章第九章第三節第三編第二章第一節第二節第四節乃至第六節、通貨及證券模造取締法、

明治三十八年法律第六十六號、紙幣類似證券取締法、印紙犯罪處罰法、商法第二百六十一條、明治二十三年法律第三十二號商法第三編第九章、

同年法律第一百號、保險業法第九十八條ノ三若ハ本法第三十一條乃至第三十二條ノ五ノ規定ニ依リ刑ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ又

ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ五箇年ヲ經過セサル者ハ仲買人トナルコトヲ得ス前項ニ該當スル者亦同シ

第十一條ノ二 會員第十條第一項ノ要件ヲ缺キ又ハ前條第一項若ハ第二項ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ取引所ヨリ脱退ス

農商務大臣ハ不正ノ手段ニ依リ會員トナリタル者又ハ第十條第一項ノ要件ヲ缺キ若ハ前條第一項第二項ニ該當スル者ニシテ會員トナリタル者ア

ルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ除名シ又ハ其ノ取引所ヨリ脱退セシムルコトヲ得  
仲買人前條第一項又ハ第三項ニ該當スルニ至リタルトキハ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

農商務大臣ハ不正ノ手段ニ依リ仲買人タルノ免許ヲ受ケタル者又ハ前條第一項若ハ第三項ニ該當スル者ニシテ免許ヲ受ケタル者アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ除名シ又ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十一條ノ三 仲買人他ノ取引所ノ仲買人タル免許ヲ受ケタルトキハ前ノ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

前項ノ規定ハ仲買人カ取引所ノ役員タル認可ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條ノ四 仲買人ハ第二項但書ノ場合ヲ除クノ外支店、出張所其ノ他何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス其ノ本店以外ノ場所ヲ以テ賣買取引ノ取扱ヲ爲ス場所ト爲スコトヲ得ス

何人ト雖定期取引ノ委託ノ代理、媒介又ハ取次ヲ營業ト爲スコトヲ得ス但シ仲買人農商務大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條ノ二 取引所ハ其ノ定款ヲ以テ會員若ハ仲買人トナルニ必要ナル條件ヲ定メ又ハ仲買人ノ員數ヲ制限スルコトヲ得

第十一條ノ二ノ規定ハ會員若ハ仲買人カ前項ノ要件ヲ缺クニ至リタル場合又ハ之ヲ缺ク者ニシテ會員若ハ仲買人トナリタル者アルコトヲ發見シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條ノ三 仲買人ハ廢業後ト雖其ノ取引所ニ於ケル取引ノ結了及監督ノ目的ノ範圍内ニ於テハ取引結了後二週間ヲ經過スル迄仍廢業セサルモノト看做ス

仲買人死亡シ若ハ除名セラレ又ハ其ノ免許カ取消サレ若ハ效力ヲ失ヒタル場合ニ於テハ其ノ取引所ニ於ケル取引ノ結了ニ至ル迄亦前項ニ同シ

前項ノ規定ハ會員ノ死亡、除名及脱退ノ場合ニ之ヲ準用ス

前三項ノ場合ニ於テ會員又ハ仲買人ノ行爲ヲ爲ス者ナキトキハ取引所ハ定款ノ定ムル所ニ從ヒ他人ヲシテ

農商務大臣ノ認可ヲ得テ代理人ヲ選定シ其ノ行爲ヲ爲サシムルコトヲ得

第十六條ニ左ノ一項ヲ加フ  
取引所ノ仲買人トノ間ニ資金ノ供與、損益ノ分配其ノ他仲買人ノ營業ニ

付特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其ノ取引所又ハ之ト同種ノ物件ヲ取引スル取引所ノ役員ト爲スコトヲ得ス

第十六條ノ二 役員前條第四項ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ仲買人ノ免許ヲ受ケタルトキハ其ノ職ヲ失フ理事長又ハ理事他ノ取引所ノ理事長又ハ理事タル認可ヲ受ケタルトキ亦同シ

農商務大臣ハ不正ノ手段ニ依リ役員タルノ認可ヲ受ケタル者若ハ前條ノ規定ニ違反シテ役員トナリタル者アルコトヲ發見シ又ハ役員ニシテ第十七條第二項ノ規定ニ違反スル者アリト認メタルトキハ之ヲ解職スルコトヲ得

第十六條ノ三 農商務大臣ハ役員ノ職務ヲ行フ者ナキ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ假ニ役員ヲ選任スルコトヲ得

第十七條 役員又ハ取引所ノ使用人ハ何人ノ名ヲ以テスルヲ問ハス其ノ取引所ノ取引物件ニ付取引所ニ於ケル賣買取引ヲ爲シ又ハ其ノ委託ヲ爲スコトヲ得ス

役員又ハ取引所ノ使用人ハ其ノ取引所又ハ之ト同種ノ物件ヲ取引スル取引所ノ仲買人トノ間ニ資金ノ供與、損益ノ分配其ノ他仲買人ノ營業ニ付特別ノ利害關係ヲ有スルコトヲ得ス

第二十二條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ  
但シ直取引又ハ延取引ノ違約ヨリ生スル損害ノ賠償ニ付テハ定款ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二十五條 仲買人ハ委託ヲ受ケタル取引所ノ定期取引ニ付取引所ニ於テ其ノ賣建、買建又ハ受渡ヲ爲サスシテ之ヲ爲シタルト同一又ハ類似ノ計算ヲ以テ委託者ニ對シ其ノ決済ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シタル仲買人ハ取引所<sup>〇之三箇月以上ノ營業停止ヲ命シ又ハ</sup>之ヲ除名スヘシ

第二十六條 取引所ハ命令ノ定ムル所ニ依リ公定相場ヲ決定シ及之ヲ公示スヘシ

取引所ハ命令ノ定ムル所ニ依リ各仲買人ノ賣買高ヲ公示スヘシ

第二十六條ノ二 取引所外ニ於テハ定期取引ト同一若ハ類似ノ取引ヲ目的トスル市場ヲ開キ又ハ其ノ市場ニ於テ取引ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑

法ノ刑重キトキハ刑法ニ依ル

一 第十二條第一項ノ規定ニ違反シタル者

二 第十七條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ同條第二項ノ特別ノ利害關係ヲ生スルコトヲ目的トスル行爲ヲ爲シタル者

三 第二十六條ノ二ノ規定ニ違反シタル者

四 仲買人ニシテ委託者ニ對シ其ノ委託ヲ受ケタル取引ニ關シ虛偽ノ通知ヲ爲シタル者

第三十二條 第十一條ノ四ノ規定ニ違反シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條ノ二 取引所ノ役員又ハ取引所ニ於ケル受渡物件ノ格付ヲ爲ス者其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第三十二條ノ三 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 取引所ノ役員又ハ取引所ニ於ケル受渡物件ノ格付ヲ爲ス者ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者

二 取引所ニ於ケル相場ヲ偽リテ公示シタル者

三 公示若ハ頒布ノ目的ヲ以テ虛偽ノ相場ヲ記載シタル文書ヲ作製シタル者又ハ之ヲ頒布シタル者

前項第一號ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十二條ノ四 取引所ニ於ケル相場ノ變動ヲ圖ル目的ヲ以テ虛偽ノ風説ヲ流布シ、偽計ヲ用ヒ又ハ暴行若ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條ノ五 取引所外ニ於テ取引所ノ相場ニ依リ差金ノ授受ヲ目的トスル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第八十六條ノ適用ヲ妨ケス

第三十三條ノ六 會員又ハ仲買人ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇

人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ第十一條ノ四若ハ第十二條第一  
項ノ規定ニ違反シ又ハ第三十一條第四號ノ規定ニ該當スル行爲ヲ爲シタ  
ルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

附 則

本法ハ大正三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員橋本圭三郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(橋本圭三郎君) 唯今日日程ニ上ツテ居リマス取引所法ハ比較的重  
大ノ問題デゴザイマス、大臣自ラ出席イタシマシテ御説明ヲ致ス等デゴザイ  
マスガ、御承知ノ通り本日ハ總裁ノ宮殿下御台臨ノ下ニ、大正博覽會ガ開會  
ニナリマスノデ、其方ニ參リマシテ、私ガ代ツテ御説明ヲ申上ゲマス、ソレデ  
此取引所ノ改善問題ハ、御承知ノ如ク多年ノ懸案ニナツテ居ルノデアリマシ  
テ、政府ニ於キマシテモ色々廣ク當業者等ノ意見モ徵シマシテ、又學者先生  
達ノ意見モ聞キマシテ、今日一ノ成案ヲ得タノデアリマス、或ハ世間此改正  
案ハ根本ニ於テ改正ヲ試ミナイノデアツテ、姑息ノ改正案デアルト云フヤウナ  
聲モ一部聞クノデアリマスガ、斯ノ如ク數百年來ノ歴史ヲ有ツテ今日ニ參リマ  
シタ斯ウ云フ經濟ノ機關ヲ、一朝ニシテ根本カラ改メマスト云フコトハ、甚  
ダ其當ヲ得スコトト思ヒマシテ、政府ハサウ云フ改正ヲ敢テシナカッタノデア  
リマス、而シテ此度ノ改正ハ、一方ニ於キマシテハ取引所ノ役員及其使用人ヲ  
シテ最モ公平ナル位置ニ立タシメ、一方ニ於キマシテハ仲買人ノ資格等ニ於  
テ改正ヲ加ヘマシテ、仲買人ガ今日マデノ如ク支店、出張所ノヤウナモノヲ  
設ケマシテ、甚シキ弊害ノアルコトヲ禁止シマシテ、又一方ニ於キマシテハ、  
此次ノ議題ニナツテ居リマス其税法ノ改正、ソレカラシテ又仲買人以外ノ者ガ  
取引類似ノ行爲ヲ以テ、真正ノ仲買人ノ營業ヲ妨害シマスノヲ嚴禁イタシテ、  
一方ニ於テハ今ノヤウナ方法ヲ講ジマシテ、仲買人ヲシテ安全ニ安心シテ營  
業ヲ營ムコトヲ得セシムルヤウニ致シマシテ、漸次此仲買人ノ品位ヲ向上シ  
マシテ、遂ニ最終ノ目的ヲ達シ、即チ公正ノ此相場ヲ造ルト云フ、此大切ナ  
ル機能ヲ全ウセシムルヤウニ、漸次進メテ行キタイト云フ趣意デ、此法案ヲ  
編シタ譯デアリマス、ドウゾ此法律ニ付キマシテハ、衆議院ニ於テ二三箇所  
ノ修正ハゴザイマスケレドモ、尤モノ修正ト思ヒマシテ、政府ニ於テハ同意  
ヲシタ次第デアリマス、終ニ臨ンデ一言御詫ヲ申上ゲテ置キマス、斯ル法案  
ヲ斯ノ如キ會期切迫ノ際、貴族院ニ御廻シヲ致シマシタト云フコトハ甚ダ申

譯ノナイ次第デアリマスガ、實ハソレハ調ベテ見レバ調ベテ見ル程、此法律  
ハムツカシイ問題デアリマシテ、米穀又ハ株式ノ方ノ此小サナ取引、大キナ  
取引ト云フ所ノ實際ノ狀況ヲ能ク調査イタシマシテ、種々ノ人ノ説ヲ聞キ、  
又關係官廳ハ司法省、大藏省、内務省ニ分レテ居リマスカラ、ソレノ協議  
ヲ致シマシタ、其爲ニ遂ニ不本意ナガラ遅クナツタノデアリマシテ、甚ダ申譯  
ナイ次第デアリマスガ、ドウゾ御審議ノ上、是非トモ御協賛アラムコトヲ願  
ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス

〔東久世書記官朗讀〕

取引所法中改正法律案特別委員

- 伯爵寺島 誠一郎君 子爵加納 久宜君 子爵松平 親信君
- 子爵片桐 貞央君 仲小路 廉君 男爵長松 篤業君
- 男爵郷 誠之助君 鮫島 武之助君 木村 誓太郎君

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第三、取引所税法改正法律案、政府提出、  
衆議院送付、第一讀會

取引所税法改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正三年三月十七日

衆議院議長奥繁三郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

取引所税法

第一條 取引所ニハ賣買手数料收入金額百分ノ十五ノ割合ニ依リ取引所營  
業稅ヲ課ス

第二條 取引所ハ毎月ノ賣買手数料收入金額ヲ翌月十日迄ニ政府ニ申告ス  
ヘシ但シ廢業ノトキハ直ニ之ヲ申告スヘシ

前項ノ申告ヲ爲サス又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ  
其ノ課稅標準額ヲ決定ス

第三條 取引所營業稅ハ毎月分ヲ翌月末日迄ニ納付スヘシ但シ廢業ノトキ  
ハ直ニ之ヲ納付スヘシ

第四條 會員組織ノ取引所ニハ取引所營業稅ヲ課セス

第五條 取引所ニ於ケル定期取引ニハ其ノ賣買各約定金高ニ對シ左ノ稅率ニ依リ取引稅ヲ課ス

第一種 地方債證券、社債券

萬分ノ二

第二種 有價證券

萬分ノ五

第三種 商品

萬分ノ五

賣買ヲ解約スルモ其ノ税金ハ之ヲ免除セス

第六條 定期取引ニ於ケル轉賣及買戻ニハ取引稅ヲ課セス

第七條 國債證券ノ定期取引ニハ取引稅ヲ課セス

第八條 取引所ノ仲買人又ハ會員ハ毎月分ノ定期取引ノ賣買各約定金高ヲ種別毎ニ記載シタル申告書ヲ取引所ヲ經テ翌月十日迄ニ政府ニ提出スヘシ

取引所ハ前項ノ申告書ヲ調査シ其ノ當否ニ付意見ヲ付シ前項ノ期間内ニ之ヲ政府ニ提出スヘシ

前項ノ規定ニ依リ取引所ヲシテ申告書ノ調査ヲ爲サシムル爲仲買人又ハ會員ハ第一項ノ期日前相當ノ期間内ニ申告書ヲ取引所ニ送付スヘシ

申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告高ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ其ノ課稅標準額ヲ決定ス

第九條 取引所ノ仲買人又ハ會員ハ毎月分ノ税金ヲ取引所ヲ經テ翌月末日迄ニ政府ニ納付スヘシ

第十條 政府ハ取引稅ノ納稅告知書ヲ取引所ニ交付シ取引所ハ之ヲ其ノ仲買人又ハ會員ニ送達スヘシ此ノ場合ニ於テハ取引所ニ交付シタル時ヲ以テ其ノ仲買人又ハ會員ニ送達アリタルモノト看做ス

取引所ハ其ノ仲買人又ハ會員ノ納付スヘキ税金ヲ取纏メ前條ノ納期內ニ之ヲ政府ニ送付スヘシ

取引所前項ノ規定ニ依リ取纏メタル税金ヲ送付セサルトキハ國稅徵收法ニ依リ取引所ヨリ之ヲ徵收ス

第十一條 取引所ノ仲買人又ハ會員カ廢業脫退其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ課稅標準額ノ申告及取引稅ノ納付ハ前三條ノ期限ニ拘ラス直ニ之ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ取引所ノ廢業シタル場合ニ於テ取引稅ニ付之ヲ準用ス

第十二條 取引所ハ其ノ仲買人又ハ會員ノ取引稅ノ納付ニ付保證ノ責ニ任

ス  
取引所ノ仲買人又ハ會員納期內ニ取引稅ヲ納付セサルトキハ政府ハ取引所ヨリ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十三條 取引所ハ賣買手數料及賣買取引ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

取引所ノ仲買人又ハ會員ハ賣買取引ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十四條 收稅官吏ハ取引所、取引所ノ仲買人又ハ會員ニ就キ其ノ賣買手數料又ハ賣買取引ニ關スル帳簿書類ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十五條 取引所第二條ノ申告ヲ怠リ又ハ詐リタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス因リテ脫稅シタルトキハ脫稅高三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス

第十六條 取引所ノ仲買人又ハ會員第八條又ハ第十一條ノ申告ヲ怠リ又ハ詐リタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ十圓以上ノ科料ニ處ス因リテ脫稅シタルトキハ脫稅高五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス但シ税金二十圓未滿ナルトキハ罰金額ヲ百圓トス

第十七條 取引所法第二十五條ノ規定ニ違反シタル行爲アリタルトキハ取引稅ニ關シテハ取引所ニ於テ定期取引ヲ爲シテ脫稅シタルモノト看做シ其ノ税金五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス但シ税金二十圓未滿ナルトキハ罰金額ヲ百圓トス

前項ノ場合ニ於テハ委託者ニ對シ約定金高トシテ計算シタル金額ヲ以テ賣買各約定金高トス

第十八條 取引所ノ仲買人又ハ會員ノ爲シタル第八條又ハ第十一條ノ申告不當ナル場合ニ於テ取引所之ヲ正當ナル申告トシテ政府ニ提出シタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ十圓以上ノ科料ニ處ス因リテ脫稅スルニ至ラシメタルトキハ脫稅高五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ税金二十圓未滿ナルトキハ罰金額ヲ百圓トス

第十九條 取引所又ハ取引所ノ仲買人若ハ會員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ十圓以上ノ科料ニ處ス

一 取引所第八條又ハ第十一條ノ場合ニ於テ申告書ニ意見ヲ附セス又ハ

申告書ノ提出ヲ怠リタルトキ

二 賣買手數料又ハ賣買取引ニ關スル帳簿ヲ調製セス、其ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リタルトキ又ハ帳簿書類ヲ隱匿シタルトキ

三 收稅官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、之ヲ妨ケ若ハ忌避シタルトキ

第二十條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用キス

第二十一條 取引所ノ仲買人又ハ會員ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ其ノ仲買人又ハ會員ヲ處罰ス

第二十二條 北海道府縣、市町村及北海道沖繩縣ノ區ハ取引所營業稅ニ對シ本稅百分ノ十以内ノ附加稅ヲ課スルノ外取引所ノ業務ニ對シ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス

附 則

本法ハ大正三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十二條ノ規定ハ大正四年四月一日ヨリ施行ス

本法施行前ノ賣買取引ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依リ取引所稅ヲ徵收ス  
本法施行前ニ爲シタル賣買取引ニ係ル賣買手數料ニシテ本法施行後ニ收入スルモノハ取引所營業稅ノ課稅標準額ニ算入セス

明治三十九年法律第十二號ハ之ヲ廢止ス

〔政府委員勝田主計君演壇ニ登ル〕

○政府委員(勝田主計君) 唯今議題トナツテ居リマス所ノ取引所稅法ノ改正ニ付キマシテハ、第二ノ議題ニナツテ居リマシタ所ノ取引所法ガ改正サレマシタニ付キマシテ、之ニ關聯イタシマシテ大體取引所稅ヲ輕減イタス趣意ヲ以テ提出シタノデゴザイマス、其改正ノ重ナル要綱ヲ申シマスト云フト、先ヅ舊來ノ法律デゴザイマス、取引所稅ト云フ一ツニナツテ居リマシタノヲ、此度ハ營業稅ト取引稅ト此二ツニ區別ヲ致シマシテ、即チ取引所ノ營業ニ對シマシテハ營業稅ヲ課シマス、又其取引ニ對シマシテ、即チ主トシテ定期取引デアリマスガ、此定期取引ノ賣買約定高ヲ標準ト致シマシテ、取引稅ヲ課スルコトニ致シマシタ、其率ハ從來、此地方債、社債、斯ノ如キモノガ萬分

ノ五トナツテ居リマシタ、之ヲ萬分ノ二ニ改メタルコトニ致シマシタ、又有價證券、商品ノ如キハ萬分ノ十二ニナツテ居リマシタノヲ、之ヲ各、萬分ノ五ニ改ム、斯様ニ致シマシタノデゴザイマス、其他本案ニ付キマシテハ脫稅ノ取締ニ關スル所ノ規定ヲ多少設ケマシタノデゴザイマス、大體ノ趣旨ハ右ノヤウナ次第デアリマスガ、會期切迫ノ際、甚ダ恐入リマスガ、何卒御審議ノ上、御協贊ヲ切望イタシマス次第デアリマス

○議長(公爵德川家達君) 此法案ノ特別委員ハ第二ノ法案ノ特別委員ニ付託ヲ致シマシテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○加太邦憲君 緊急動議ガゴザイマス、裁判所構成法中改正法律案、辯護士法中改正法律案、此二法律案ハ共ニ判檢事辯護士試驗ノコトヲ含ンデ居リマスノデゴザイマスガ、昨年衆議院カラ同シ法案ガ提出ニナリマシテ、出マシタ所ガ本議會ニ於テ政府ハ、試驗制度ノコトニ付テ根本的カラ調査ヲシテ、次ノ議會ニ案ヲ提出スル積リデアアル、故ニ前議會ニ於テハ否決シテ貫ヒタイト云フノデ、前議會ニ否決ニナリマシタノデアリマス、サウシテ自然ハ急ギマス譯デアリマス、議會ノ終モ切迫イタシマシタカラ、本日ノ議事日程ヲ變更セラレマシテ、議題ニ上セラレテ、第一讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 加太君ニ確カメマスガ、唯今ノ議事日程ノ追加ハ、裁判所構成法中改正法律案、竝ニ辯護士法中改正法律案、此兩法ト心得テ宜シウゴザイマスカ

○加太邦憲君 其二案、デゴザイマス

○子爵岡部長職君 贊成

○議長(公爵德川家達君) 加太邦憲君ノ議事日程變更ノ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ兩案ノ第一讀會ヲ開キマス

裁判所構成法中改正法律案  
右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正三年三月十九日

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議長奥繁二郎

裁判所構成法中改正法律案

裁判所構成法中左ノ通改正ス

第五十七條 判事又ハ檢事ニ任セラルルニハ第六十五條ニ定メタル者ヲ除ク外試補トシテ一年六月以上裁判所及檢事局ニ於テ實務ノ修習ヲ爲シ且

考試ヲ經タルコトヲ要ス

實務ノ修習及考試ニ關スル細則ハ司法大臣之ヲ定ム

第五十八條 試補ハ成規ノ試験ニ合格シタル者ノ中ヨリ司法大臣之ヲ命ス

前項ノ試験ニ關スル規則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條 削除

第六十二條 司法大臣ハ試補ノ行狀其ノ地位ニ適セス又ハ修習ノ成績考試

ニ合格スヘキ見込ナシト認ムルトキハ之ヲ罷免スルコトヲ得

第六十五條 第一項中「試験」ノ下ニ「及考試」ヲ加ヘ同條第二項ヲ削ル

第六十七條 判事ハ○格別官トシ親任ト勅任又ハ奏任トシ終身其ノ官ヲ保有ス

第六十八條 大審院長ハ親任判事ヲ以テ之ニ親補ス

控訴院長及大審院ノ部長ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任判事ノ中ヨリ之ニ補シ其ノ他ノ判事ノ職ハ勅任判事又ハ奏任判事ノ中ヨリ司法大臣之ヲ補ス

第七十九條 第三項ヲ左ノ如ク改ム

檢事總長ハ勅任檢事ヲ以テ之ニ親補ス

檢事長ハ司法大臣ノ上奏ニ因リ勅任檢事ノ中ヨリ之ニ補シ其ノ他ノ檢事ノ職ハ勅任檢事又ハ奏任檢事ノ中ヨリ司法大臣之ヲ補ス

附 則

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際從前ノ規定ニ依リ判事檢事又ハ試補タル資格ヲ有スル者ハ本法施行後ト雖仍其ノ資格ヲ有ス

辯護士法中改正法律案

大正三年三月十九日

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議長奥繁二郎

辯護士法中改正法律案

辯護士法中左ノ通改正ス

第二條 第二號ヲ左ノ如ク改ム

第二條 裁判所構成法第五十八條ノ試験ニ合格シタルコト

第三條 削除

第四條 左ニ掲クル者ハ試験ヲ要セスシテ辯護士タルコトヲ得

第一 判事檢事タル資格ヲ有スル者

第二 法律學ヲ修メタル法學博士

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際從前ノ規定ニ依リ辯護士タル資格ヲ有スル者ハ本法施行後ト雖仍其ノ資格ヲ有ス

〔政府委員小山温君演壇ニ登ル〕

○政府委員(小山温君) 唯今司法大臣ガ差支ヘテ居リマスカラ、私ヨリ僭越ナガラ此案ノ御説明ヲ申上ゲマス、裁判所構成法中改正法律案ノ改正ノ要點ハ二廉デゴザイマス、一ツハ要スルニ是マデハ帝國大學ノ卒業生ハ、第一回試験ヲ免除ニナッテ居リマシタノヲ、今般ハ二回試験ト云フコトヲ止メマシテ、サウシテ皆同ジヤウニ試験ヲ致シマス云フコトニ致シマスノガ一廉デゴザイマシテ、尙一廉ハ大審院長タル判事モ舊來ハ現行法ニ依リマスト天皇之ヲ補ス、斯ウナッテ居リマスノヲ、親任判事ヲ以テ親補スルト云フコトニ改メマス云フコトガ一ツ、ソレカラソレニ鈞合ヒマシテ檢事總長ヲ親補職ニ致シマス云フコトガ一ツ、斯ウ云フコトニナリマス、試験ノコトハ宿題ニナッテ居リマシテ、前議會ニ於テモ衆議院ヨリ謂ハユル大學ノ特權廢止ニ付テ

提案ガゴザイマシテ、當御院デ延期ノ意味ニ於テ御否決ニナツテ居リマシタ

ノデゴザイマス、段々詮議ヲ遂ゲマシテ遂ニ此提案ニ至リマシタノデゴザイ

マスガ、從來始ニ於テハ高等文官試験、外交官試験、共ニ帝國大學卒業生ノ試

験ハ免除ニナツテ居リマシタノガ、段々此二ツノモノハ帝國大學ノ卒業生モ矢

張り試験ヲスルコトニナリマシタノニ、獨リ判事檢事ノ登用試験ニ限り、第

一回試験ダケガ免除ニナツテ居リマシタノデゴザイマス、ソレデゴザイマスカ

ラ、是ハ殘ッテ居リマスノデ、試験ヲ致シマスモノナラ皆イタシマスカ、試験

ヲ致シマセヌモノナラバ何レノ試験ヲモ免除スルト云フコトニナリマセナケ

レバ權衡ヲ得マセヌデゴザイマスカラ、皆試験ヲスルト云フ方ニ統一ヲスル

積リデ、サウシテ試験ノ事柄ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム、斯ウ云フコトニ致シマシ

タノデゴザイマス、ソレカラ又大審院長ハ申スマデモナク司法官ノ最高位ニ

居リマスルモノデゴザイマスカラ、是ハ國務大臣對等ノ地位ニ置クノガ相當

デアルト云フ趣意デゴザイマス、ソレカラ又檢事總長モ全國ノ檢事ヲ指揮イ

タシマス官デゴザイマシテ、檢事ノ頭デゴザイマスカラ、是モ通常ノ檢事長ヨ

リ一等高イモノニスルノヲ相當ト考ヘマシテ提案イタシマシタ考デゴザイマ

ス、ソレデ辯護士法ノ改正モ、是ハ試験ノコトダケデゴザイマシテ、矢張り統

一イタシタイト云フ爲ニ提案イタシマシタノデゴザイマス、構成法中改正法

律案ニ付テハ衆議院ノ幾分ノ修正ガゴザイマスガ、此修正ハ字句ノ修正ニ止

マリマシテ、趣意ニ於テ變リマシタコトハゴザリマセヌ、宜シク御審議アラム

コトヲ……

○議長(公爵徳川家達君) 此兩案ハ同一委員デ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ報告ニ

及ビマス

〔東久世書記官朗讀〕

裁判所構成法中改正法律案外一件特別委員

- 子爵岡部 長 職君 子爵酒井 忠 亮君 平山 成 信君
- 小牧 昌 業君 男爵關 義 臣君 山川 健 次郎君
- 奥山 政 敬君 石渡 敏 一君 加太 邦 憲君

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第四、營業稅法中改正法律案、政府提出、

衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告

〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ載録ス以下之ニ倣フ〕

營業稅法中改正法律案

右別冊ノ通修正セリ依テ及報告候也

大正三年三月十八日

右特別委員長

公爵徳川慶久

第四條中〇「使役ヲ使用ニ、五百圓」ヲ「千圓」ニ、「二人」ヲ「三人」ニ改ム

第五條ノ一中「雇人二人」ヲ「職工勞役者ヲ通シテ三人」ニ改ム

第七條中「職工雇人ヲ通シテ二人」ヲ「職工勞役者ヲ通シテ三人」ニ、「千圓」ヲ「二千圓」ニ改ム

第十二條 營業稅ハ左ノ課稅標準及稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス

業名	課稅標準	稅率
物品販賣業	賣上金額	卸賣 甲 萬分ノ八 乙 萬分ノ十一 小賣 甲 萬分ノ二十 乙 萬分ノ三十
銀行業	資本貸付金額	千分ノ四、五 一人毎ニ金二圓
金貨貸付業	運轉資本貸付金額	千分ノ六 一人毎ニ金二圓
印刷造業	資本貸付金額	千分ノ七、十 一人毎ニ金二圓
製刷業	資本貸付金額	千分ノ七、十 一人毎ニ金二圓
寫真業	資本貸付金額	千分ノ五 一人毎ニ金二圓
運送業、運河業、棧橋業、船舶碇繋場業、貨物陸揚場業	資本貸付金額	千分ノ五 一人毎ニ金二圓
倉庫業	建物賃貸價格	千分ノ八十 一人毎ニ金二圓 一人毎ニ金五十錢

〔特別委員ノ修正ニ係ル條ノミヲ載録ス〕

〔小字ハ修正文、一ハ同削除ノ符號〕

鐵道業	收 入 金 額	千分ノ二十
請 員 業	從業者ノ内職工勞役者	一人毎ニ金二圓
請 員 業	從業者ノ内職工勞役者	一人毎ニ金二圓
請 員 業	從業者ノ内職工勞役者	一人毎ニ金五十錢
席 貨 業	從業者ノ内職工勞役者	千分ノ百十五
席 貨 業	從業者ノ内職工勞役者	一人毎ニ金二圓
料 理 店 業	從業者ノ内職工勞役者	千分ノ百二十
料 理 店 業	從業者ノ内職工勞役者	一人毎ニ金二圓
旅 人 宿 業	從業者ノ内職工勞役者	千分ノ七十五
旅 人 宿 業	從業者ノ内職工勞役者	一人毎ニ金二圓
周旋業、代理業、仲立業、問屋業、信託業	從業者ノ内職工勞役者	千分ノ三十
周旋業、代理業、仲立業、問屋業、信託業	從業者ノ内職工勞役者	一人毎ニ金二圓

物品販賣業中米、麥、豆、石油、肥料、鹽、煙草ヲ販賣スル者ノ賣上金額ニハ卸賣、小賣共ニ甲ノ稅率ヲ適用シ、白絹絲生絲、白絹布、棉花、綿、白綿絲、白綿布、白麻絲、白麻布、紙、麥稈眞田、麻眞田、經木眞田、花莖、砂糖、薪炭、麥粉、燐寸、銅鋼鐵地ヲ販賣スル者ノ賣上金額ニハ卸賣ニ在リテハ甲、小賣ニ在リテハ乙ノ稅率ヲ適用シ其ノ他ノ物品ヲ販賣スル者ノ賣上金額ニハ卸賣、小賣共ニ乙ノ稅率ヲ適用ス

第十五條 但書ヲ左ノ如ク改ム  
 ○第二項  
 但シ内國ト外國トニ涉リ店舗其ノ他ノ營業場數箇所アルモノニシテ資本ヲ區分セサルモノハ内國ニ於ケル課稅標準ヲ見積リ主タル店舗其ノ他ノ營業場内國ニ在ルトキハ合算シテ之ヲ課シ内國ニ在ラサルトキハ各別ニ之ヲ課ス

第十七條 製造業ノ資本金額カ前年ノ資本金額ニ對シ五分ノ一以上増加シタルトキハ其ノ増加額ハ二年間之ヲ課稅標準ヨリ控除ス但シ二年繼續シテ資本金額ヲ増加シタル場合ニ於テ前年ノ資本金額ニ對シ五分ノ一以上増加シタルトキハ其ノ年ニ限り前年ニ對スル増加額ヲ控除ス

第二十九條中「資本金額」ヲ「資本金額、運轉資本金額」ニ、「以上」ヲ「未滿」ニ改メ、「從業者ノ人員屆出人員二分ノ一以下」ニ改メ、「從業者各月ニ於ケル最多數ノ平均人員前年中各月ニ於ケル最多數ノ平均人員二分ノ一未滿」ニ改ム

第三十一條中「資本金額」ヲ「資本金額、運轉資本金額」ニ改メ、「從業者ノ人員其ノ最多數ノ平均人員」「屆出人員」ヲ削ル

數ノトキニ於テ屆出「ヲ」從業者各月ニ於ケル最多數ノ平均人員前年中各月ニ於ケル最多數ノ平均「ヲ」削ル  
 ○「屆出」ヲ「申告」ニ改メ  
 第三十四條中「其ノ脫稅シタル者ハ脫稅金額三倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス」ヲ削ル  
 「公爵德川慶久君演壇ニ登ル」

公爵德川慶久君

是ヨリ營業稅法中改正法律案ノ特別委員會ノ經過ヲ御報告申上ゲマス、此委員會ハ減稅ノ法案ヲ數種付託サレタノデゴザイマシテ、其爲ニ財源及各種ノ權衡ヲ保ツ爲ニ、可ナリ長イ間之ヲ持ッテ居ッタデアリマス、非常ニ長引キマシタ段ハ茲ニ先ヅ以テ一言御斷リヲ申上ゲテ置キマス、此營業稅法案ノ内容ハ既ニ御承知ノコトト思ヒマスカラ深クハ申上ゲマセヌ、茲ニ其要點ノミヲ簡單ニ申上ゲマス、第一ニ課稅ノ最低限ヲ引上ゲルト云フコトガ一ツデアリマス、第二ニ物品販賣業ノ賣上金ノ種類ニ依テ稅率ヲ區分シタルト云フコトガ一ツデアリマス、第三ニ從業者ノ計算方法ヲ變ヘタルト云フコトガ一ツデアリマス、第四ニ從業者ノ十五歳未滿ノ者ニ免稅ヲスルト云フコトガ一ツデアリマス、第五ニ貸賃價格ノ計算方法ヲ變ヘタルト云フコトガ一ツデアリマス、第六ニ製造業ノ資本金額増加ノ場合ニ於ケル計算方法ヲ變更シタルト云フコト、第七ニハ徵收方法ノ改正、是等ハ先ヅ此案ノ極ク要點デアラウト思ヒマス、之ヲ金額ニ致シマシテ八百十萬一千圓デゴザイマス、政府ガ衆議院ニ提出イタシマシタ所ハ四百六十八萬六千圓デアッタデアリマス、大體案ノ内容ハ斯ノ如キモノデアリマシテ、次ニ委員會ノ決議ヲ申上ゲマス、委員會ハ是ハ産業獎勵ニ對スル減稅ノ案デアッテ、至極大體ニ於テ之ヲ可ト認メマシタデアリマス、而シテ其財源ハ政府ノ言ハル所ニ依レバ、大正四年度カラ約千五六百萬圓ノ恆久財源ガアルト云フコトヲ言ハルルノデアリマス、サウシテ此財源ハ全部減稅ニ使フ積リデナイノデアルト云フコトハ居リマスガ、免ニ角此財源ガアルト云フコトハ確カデアアル、一面ニ産業獎勵ノ爲ニ減稅スルト云フノデアリマスカラ、委員會ニ於テハ大體ニ於テ之ヲ可ト認メマシタノデアリマス、而シテ茲ニ修正意見ガ大分出タノデアリマス、既ニ修正意見ニ付テハ御手許ニ廻ッテ居ルコトト存ジマスガ、茲ニ一々詳シク申上ゲマスト冗長ニ渡リマスカラ、之ヲ總括的ニ御報告シヤウト思ッテ居リマス、第一ニ意味ヲ明瞭ニスル爲、並ニ法文ノ體裁上カラ之ヲ修正シタモノガハツゴザイマス、ソレハ第四條、第五條、第七條、第十二條、第十五條、第二十九條、

第三十一條、第三十四條、是ダケデアリマス、ソレカラ第二ニ稅率輕減ノ目  
 のヲ以テ致シマシテ修正ガ一箇條ゴザイマス、是ハ即チ稅率ヲ公平ナラシム  
 ル爲ノ目的デアリマシテ、十二條ノ薪炭業ニ關スルモノデアリマス、ソレカ  
 ラ第三ノ修正ハ資本増加ノ場合ニ於キマシテ、其負擔ヲ輕減スルト云フ目的  
 カラシマシタモノガ一ツデアリマス、是ハ第十七條デアリマス、其理由ニ付  
 キマシテハ、一々詳シク茲ニ御説明申上ゲルコトヲ省略イタシマス、ソレカ  
 ラ尙モウ一ツ修正意見ガ出マシタノデゴザイマス、是ハ委員會ニ於テハ否決  
 ヲセラレタノデアリマスケレドモ、茲ニ一應申上ゲテ置ク必要ガアラウト思  
 ヒマスカラ其理由ヲ大體申上ゲマス、此修正意見ハ附則即チ一ノ經過法ヲ設  
 ケテ、大正三年度ヨリ營業稅ヲ實施シヤウト云フ案デアリマス、其修正ノ理  
 由ハドウデアアルカト云フト、極メテ簡單ニ申上ゲマスルガ、産業獎勵ノ爲ニ  
 一年デモ早ク之ヲ行ツタラバ宜カラウト云フコトガ一ツデアリマス、ソレカラ  
 今一ツハ昨年貴族院ニ此營業稅法案ヲ提出セラレタノデアリマス、然ルニ貴  
 族院ニ於テハ其財源ノ爲ニ之ヲ通過スルコトヲ躊躇シタノデアリマス、若シ  
 昨年是ガ通過シテ居ルナラバ、本年ヨリ、勿論其額ニ於テハ違ヒマスガ、本  
 年ヨリ實行サレテ居ルモノデアラウト思フ、故ニ出來得ルナラバ本年カラ之  
 ヲ行ツタガ宜イデハナイカト云フノガ一ツデアリマス、サウシテ財源ハ、然ラ  
 バドコニ求メルカト云ヒマス、是ハ産業獎勵資金ノ四千六百萬圓ノ中カラ  
 本年ハ之ヲ支出シテ置イタラバ宜シカラウ、産業獎勵資金ハ必シモ四千六百  
 萬圓ナケレバナラヌモノデハナカラウト云フノガ一ツデアリマス、政府ハ之  
 ヲ三年度カラ實行スルト云フコトハ手續上困難デアルト言ハルケレドモ、  
 是ハ一ツノ經過法ヲ設ケサヘスレバ出來ナイコトハナイノデアルト云フ、大  
 體右ノヤウナ理由ヲ以チマシテ今年度カラ之ヲ行ヒタイト云フ修正意見ガ出  
 タノデアリマス、之ニ對シテ政府ノ意見ハ如何デアッタカト云フト、大藏大臣  
 ハ答ヘラレマスニ、若シ本年度カラ行フト云フコトガ、本年度ノ財政經畫ヲ  
 立テテ前デアッタラ、或ハ財源ヲ見出スコトガ出來タラウ、併シ今日トナツテ  
 ハ其財源ニ苦シムト云フ御答デアリマシタ、委員會ハ此財源ガムヅカシイト  
 云フコトノ爲ニ、多數ヲ以テ此修正意見ハ否決セラレタノデアリマス、是ハ  
 否決セラレタ修正意見デアリマスケレドモ、茲ニ一應申上ゲテ置ク必要ガア  
 ラウト思ヒマス、ソレカラ尙一ツ委員會ノ決議ト致シマシテ政府ニ對スル希  
 望ヲ述べタノデアリマス、ソレハ

營業稅法ハ産業ノ發達上重大ノ關係ヲ有スルヲ以テ政府ハ尙ホ篤ト調査ヲ  
 遂ゲ財政上相當ノ改正ヲ加ヘ得ルノ場合ニ於テ更ニ廟議ヲ盡サレムコトヲ  
 望ム

現行法第三十三條ノ取締法ハ已ムヲ得ザルノ規定ナリト雖モ若シ其執行ヲ  
 誤リ營業ノ秘密ヲ漏シ又ハ誅求ニ陥ルガ如キコトアラバ營業者ノ苦痛ヲ招  
 クコト少ナカラズ十分ノ注意ヲ望ム

ト斯ウ云フ希望デアリマス、大體右様ナ次第二依リマシテ、此營業稅法ノ改  
 正ハ修正可決セラレタ次次第デアリマス、此段ヲ御報告ヲ申上ゲマス

○議長(公爵徳川家達君) 別ニ御發言モナイト認メマスカラ、本案ノ第二讀  
 會ヲ開クベキヤ否ヤノ決ヲ採リマス、本案ノ第二讀會ヲ開クベシトスル諸君  
 ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半数ト認メマス

○侯爵黒田長成君 直チニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ望ミマス

○子爵曾我祐準君 賛成

〔其他「賛成」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 直チニ第二讀會ヲ開クベシトスル黒田侯爵ノ動議  
 ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半数ト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ直チニ第二讀會ヲ開キマス、全部ヲ問題ニ  
 供シマス……委員長ノ報告ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半数ト認メマス

○侯爵黒田長成君 直チニ第三讀會ヲ開カレムコトヲ望ミマス

○子爵曾我祐準君 賛成

〔其他「賛成」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 直チニ第三讀會ヲ開イテ御異存ゴザイマセヌカ  
 〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 直チニ第三讀會ヲ開キマス、第二讀會ノ決議通り  
テ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕  
○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第五、相續稅法中改正法律案、政府提出、  
衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告

相續稅法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正三年三月十七日

右特別委員長

公爵徳川 慶久

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔公爵徳川慶久君演壇ニ登ル〕

○公爵徳川慶久君 是ヨリ相續稅法ノ改正案ニ付キマシテ委員會ノ經過ヲ御  
報告申上ゲマス、此法案ノ趣意ハ既ニ御承知ノコトデアラウト存ジマスルカ  
ラ申上ゲマセヌ、唯其金額ニ於キマシテ百八十九万九千圓ノ減稅デアル、減  
額デアルト云フコトダケヲ申上ゲテ置キマス、委員會ハ家族制度ト相續稅ト  
ニ關スル質問トカ、其他種々質問ハゴザイマシタケレドモ、一々茲ニ御報告  
申上ゲマスコトハ贅長ニ互リマスカラ、總テ之ヲ速記録ニ讓リマシテ、茲ニ  
何等ノ議論モナク委員會ハ之ヲ可決シタト云フコトダケヲ御報告イタシテ置  
キマス

○子爵曾我祐准君 本案ハ讀會省略ヲ以テ決定アラムコトヲ希望シマス

○伯爵柳澤保惠君 賛成

○子爵有馬頼之君 賛成

○男爵高木兼寛君 賛成

○谷森眞男君 賛成

○男爵南岩倉具威君 賛成

○桑田熊藏君 賛成

○男爵肝付兼行君 賛成

○男爵關義臣君 賛成

○男爵内田正敏君 賛成

○男爵中川興長君 賛成

○男爵原口兼濟君 賛成

○田中源太郎君 賛成

○石渡敏一君 賛成

○議長(公爵徳川家達君) 曾我子爵ノ讀會省略ノ動議ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ  
請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス、林伯爵ヨリ通告ヲ得マ  
シタカラ、登壇ヲ望ミマス

〔伯爵林博太郎君演壇ニ登ル〕

○伯爵林博太郎君 議會切迫ノ際デアリ、且ハ相續稅ニ付キマシテ讀會省略  
ノ多數ノ御意見デアル時分ニ於キマシテ、私ガ長ク茲デ話ヲ致シマスト云フ  
コトハ如何ニモ氣ノ利カナイコトトハ存ジマス、ソレ故ニ成ルベク簡單ニ要  
領ヲ御話ヲ致スノデアアル、話シマス方モ御聞ニナル方モ誤解ヲ避ケマス爲ニ、  
私ガ御話ヲスル順序ヲ一口申シマスレバ、我國ノ國體、國民道德、即チ花井  
博士ガ衆議院ニ於テ喋々ト述べラレタ所ノ點、ソレカラシテ下リマシテ此我  
國ノ道德ガ如何ニナリテ居ルカ、現狀如何、ソレカラ又更ニ下リマシテ法律、  
經濟、社會現象ト云フモノガ、此日本ノ國體ト如何ナル關係ヲ有シテ居ルカ、  
調和シテ居ルヤ否ヤ、又下ッテ民法ノ相續編ガ如何ナル關係ニ、上ノ方トドウ  
云フ關係ヲ有ッテ居ルカ、更ニ下リマシテ相續稅ナルモノノ必要アリヤ否ヤト  
云フ結論ヲ下スノデアアル、即チ最早色々ノ人ノ話モアリマシタノデ、花井博  
士ノ仰シヤッタコトヤ、奥田大臣閣下ノ仰シヤッタコトハ全部省キマシテ、私  
ノ意見ダケヲ簡單ニ述ベマス、何卒暫ノ間御清聴ヲ煩ハシマス、我國ノ道德  
上ノ根本原理、即チ今日ハ教育勸語ト云フモノヲ中心トシテ、サウシテ民法  
デモ刑法デモ、總テノモノニ演繹的ノ解釋ヲ下シテ、簡單ニ御話ヲ致シマシ  
テ、サウシテ私ノ意見ヲ述ベル、即チ唯今ノ相續稅法ノ改正案ト云フモノニ  
ハ賛成ノ演說デアリマスケレドモ、其精神ニ於テハ反對デアアル、併シ已ムヲ  
得ズ、今期ノコトデアアルカラ、之ヲ延バサズニ賛成ヲシタト云フ理由ヲ簡單  
ニ述ベルノデアアル、時間ハ三十分以上ハ決シテ掛ケナイ積リデアリマスカラ、

暫ク御聽ヲ願ヒマス、明治二十三年十月三十日ニ先帝陛下ノ仰出シニナリマシタ所ノ教育勅語ト云フモノガアリマスルノハ、皆サン明カニ御記憶ニナツテ居ルコトデアル、然ルニ近頃ハダ、法律家ト言ヒ實際家ト言ヒ、此先帝陛下ノ御出シニナツタ勅語ノ御精神ト矛盾シタル言動ヲナスヤノ疑アル人ガ非常ニ多クナツタト云フコトハ、最モ歎息スベキコトト思ヒマス、依テ我國ノ總テノ精神現象ヲナス所ノ根本原理ハ、明治二十三年十月三十日ニ出デタル教育勅語デヤラナケレバナラヌト云フコトヲ根柢ニ置イテ、ソレデ今日ノ議論ヲスルノデス、デ此教育勅語ガ十月二十日ニ出マシテ、憲法ノ發布ガ十二月ノ議會開會ノ日デゴザイマス……此教育勅語ノ終ニ於キマシテ朕爾臣民ト眷々服膺シテ云々ト仰セラレテ、明治二十三年十月三十日、御名御璽、是ダケデゴザイマシテ、總理大臣山縣有朋公以下ノ副署ガナイト云フ此事實、是ハ洵ニ先帝陛下ノ御宏德ヲ頌シ奉ルノデアルカラ、一言イタシテモ差支ナイト考ヘマスガ、即チ此勅語ハ日本ノ根本的ノ二千五百年來、即チ花井博士ノ言ハレタ祖先崇拜、其他ノ國民道德ノ結晶シタルモノデアルカラシテ、是ハ汝等臣民ト共ニ眷々服膺シテヤラウト云フ仰デアル、御命令デハナイデス、是ガ即チ大臣ガ副署ガナイト云フコトハ、即チ他ノ勅語トハ殊ニ違ヒマシテ、覆水盆ニ返ラズ、綸言汗ノ如シト云フモノデアル、此故ニダ、如何ニ法律家ガ何ト言ツテモ、此家族制度ヲ中心トシテ、五倫五常ヲ中心トシタル所ノ、教育勅語ニ悖ルコトハ、決シテナシテハナラヌト云フコトハ明カナコトデアル、之ヲ根柢トシテマア簡單ニ述ベマス、現代ノ道德現象ハドウダ、能ク人ガ言ヒマス、五倫五常ト云フ、併ナガラ此五倫五常ノ道德モダ、陛下ノ仰セララルル如ク、日本ノ從來ノ家族制度、從來ノ根本的精神ト相俟ツテ、始メテ是ガ利用サレルノデアル、例ヘバ是等ノ德目ト云フモノハ、單純ニ考ヘレバ德目主義デアアル、形式デアアルデス、併ナガラ日本ノ國體ト云フ謂ハユル教育勅語ニアル所ノ、此御精神ト云フモノヲ理想トシテ、ソレヲ最高原理トシテ其下ニ此德目ガ動ク、ト云フコトデ以テ始メテ活動スルノデアル、例ヘバ中庸トハ何ダ、雍也篇ノ中ニ中庸之爲德也、其至矣乎、民鮮久矣、ソレヲ説明シマシテ中庸ノ中トハ天地ノ理ナリ、庸トハ常ナリナント云フヤウナコトデアアル、是ハ形式主義デアッテ、ドコマデ行ッテモサウ云フコトヲ言ッテ行ケバ限ガナイノデアアル、ソレ故ニ御覽ナサイ、支那ニ於テハ根本ノ最高原理ト云フモノハ、清朝ト明朝ガ倒レレバ、直グニ今日ノ如ク形式主義ノ德目ト云フモノハ實際ニ

於テ行ハレテ居ラス、實際今日、近來支那ニハ五倫五常ト云フモノハナイ、無イ筈デアリマス、ソレハ根本原理ガナクナツタカラデアアル、日本ハズット來テ居ルカラ、其道德ガ行ハレテ居ル、之ヲ根本ニシマシテ此道德現象ト云フモノハ形式デハイカヌ、即チ日本ノ國體ニ於テ道德的感情ヲ根本トシテ、サウシテソレニ依テ行クノデアル、即チ他國ニ是ガ類比ヲ見ナイト云フコトハ其點ニ在ル、斯ウ云フコトニナルノデアリマス、所デ日本ノ道德ハ總テノ經濟ノコトデモ、社會ノ總テノコトニ付テモ、擴充シナケレバナラヌノデアリマスカラ、之ニ依テ相續稅ト云フコトニ關係ノアル民法ハ、此教育勅語ノ御趣旨ニ對シマシテ、即チ家族制度ト云フモノニ付キマシテ、ドレダケノ權能ガアルヤ否ヤ、今日教育勅語ノ中デハ、國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒト仰セラレタ二句ガゴザイマス、其二ツノ御句ハ明治二十三年ノ四月カラ十月三十日御公布スル間、隨分長ク掛ツタ所以ノモノデアッテ、樞密院ニ於テハナカノムヅカシイ問題デアツタト云フコトヲ承ツテ居リマス、併シ此事ハ秘密ニ互リマスカラ私ハ申上ゲナイ方ガ宜カラウト思ヒマス、免ニ角茲ニ法律上ノ義務者デアルト云フコトヲ仰セラレタ、僅ニ此二句ニ於テ仰セラレタ、ソレガ問題ニナツタト云フコトハ、即チ先帝陛下ガ如何ニ之ニ依テ日本ノ將來ニ權利思想ガ發達スルヤ否ヤト云フコトヲ非常ニ御懸念ニナツタト云フコトモ是デ分カル、此教育勅語ノ御精神ニ於テハ國體ト云フモノガ主デアアル、家族制度ト云フモノガ基デアアル、而シテ此法律ノ義務者デアルト云フモノハ從デアルト云フコトヲ根柢ニ置イテ申上ゲマス、日本ノ民法ハ御覽ノ通り、御承知ノ如ク「ボアソナード」ガ二十二年ニ編ンダヤウデアリマス、謂ハユル是ハ舊民法ト稱シマス、ソレカラ多年ノ間、法學ノ大家ガ集リマシテ、明治三十一年四月十六日、是ガ發布サレタノガ新民法デアアル、民法ノ中デハ個人ガ獨立ノ財產ヲ有スルト云フコトヲ原則トシテ居ル、是ガ一ツハ日本ノ家族制度ト幾ラカ離反シテ居ルヤウニ思ハレル、又二十歳以上ノ成年ノ戶主權ガ本人一人デアッテ、サウシテ兄弟ニ及バナイト云フコトガアル、ソレカラ職業ト云フモノニ付キマシテハ、自分ノ弟ハ何ヲヤツテモ宜イ、謂ハユル其家ノ家業ト云フモノニ從ハヌデモ、之ニ對シテ何等ノ制裁ヲ與フルコトガ出來ナイ、又自分ノ兄弟姉妹ガ他ニ對シテ契約ヲシマシタニ付キマシテモ、之ヲ破壞スル所ノ權利ハ戶主ニハナイノデアアル、是等ハ即チ家ト云フモノヲ中心トシテ論ジマシタナラバ、家ニ在ッテハ祖宗ノ祭ヲスル所ノ戶主ガ其家全體ヲ統轄シ得ルモノデ

ナケレバ家族制度ノ本體ヲ破壊スルト云フ意味ニ置イタナラバ、極端ニ言ヒ  
マスレバ、是ガ即チ之ニ並行シテ居ラスト云ハナケレバナラス、其他親權篇、  
又色トナ篇ニ於テモ家ノ中ニ住ンデ居リマシテ、戸主ノ權能ガ家族制度ト矛  
盾スル點ガアル、即チ義務者デアツテ、權利ト云フモノニ對シテ民法ニ於テハ  
幾ラモ認メテ居ラナイ點ガアルノデアアル、例ヘバ自分ノ家族ガ結婚ヲシマシ  
テモ、結婚ハ厭ヤデモ無理ニ結婚シタ場合、ソレガ歸ツテ來ル時ニ其籍ヲ入レ  
ナイデモ宜イト云フコトハ、見ヤウニ依テハ家族制度ヲ破壊シテ居ルガ如ク  
見ユル、要スルニ祖宗ヲ祭ルトカ、家族制度ト云フモノニ對シテノ問題ハ既  
ニ花井博士、其他奥田博士ナドガ仰セラレタコトガアリマス、此點ハ此所ガ簡  
單ニシテ措ク、是ガ獨逸ノ方法ト日本ノヤリ方トハ正反對デアアル、日本ハ家  
族制度デズト來テ居ルノニ、段々個人主義ニ變リ掛ツテ居ル、獨逸ノ如キニ  
於テハ個人主義ノ方デズト今マデ來テ居ツタノガ、此頃ニナツテ段々家族制度  
ヲ獎勵スル傾向ガアル、即チ「カイゼル」ガダ、家族ト云フモノハ皇室ノ藩屏  
デアアルカラ、家柄家系ト云フモノハ容易ニ作ルモノデナイカラ、家族ト云フ  
モノハ棄テ難イ、實ニ大事ナモノデアアル、此獨逸ノ根柢ガ家ノ眷屬ヲ以テ組  
織シナケレバ、國家ヲ如何セムト云フ仰ガアツタ、即チ正反對ノ傾向ヲ取ツテ居  
ルカラ、ソレデ宜イ、サウナクチャドウモナラナイ譯ダラウト思ヒマス、次ニ  
此委員會ニ於キマシテ私ハ政府ノ當局ト少シ問答ヲ致シマシタ、所ガ是ハ解  
決ガ付カズニ、簡單ニ終ツテシマッタノデアリマスガ、チヨット今日ハ餘リ時間  
ヲ掛ケズニ、自分ノ意見ヲ述ベテ、サウシテ當局乃至賢明ナル諸君ノ御高教  
ヲ仰ガムトスルノデアアル、斯ウ云フ話デシタ、此家督相續ト財產相續トハ民  
法ニ於テモモウ已ニ別問題デアアル、ソレ故ニ今日ハ相續稅ヲ議スル上ニ於テ  
ハ、之ニ稅ヲ課ケルトカ課ケナイトカ云フコトハ、家督相續ニ於テ關係ガナ  
イ、斯ウ云フ、誤解カモ知レマセヌガ、斯ウ云フ風ニ私ハ聽イタ、是ハ民法  
ヲ調べテ見マスト、ドウモ少シ納得ガ出來ナイ、即チ家督相續ト云フモノニ  
付キマシテハ、九百八十六條ニ「家督相續人ハ相續開始ノ時ヨリ前戸主ノ有  
セシ權利義務ヲ承繼ス」、斯ウアル、而シテ此法律上直系卑屬ト云フモノハ、  
二分ノ一ノ財產ヲ得ルト云フコトガ別ニアル、サウシテ見ルト、權利義務ハ  
長子ニ移ルシ、同時ニ長子其他ノ直系卑屬ニ二分ノ一ノ財產ガ行クト云フコ  
トハ、其根柢ニ於テ既ニ矢張り戸主ノ家督ト云フモノハ、相續ト云フモノハ  
兩者ガ同時ニ行クト云フコトヲ、矢張り根柢ニ置イテ居ルダラウ、先キ程述

ベマシタ如ク、民法ニハ隨分個人主義ガ這入ツテ居リマスケレドモ、相續ノコ  
トニ付テハ餘程家督ヲ重ク見テ居ルト云フコトハソレデ明カデアアル、次ニ千  
零六十四條ニ「遺言者ハ包括又ハ特定ノ名義ヲ以テ其財產ノ全部又ハ一部ヲ  
處分スルコトヲ得但遺留分ニ關スル規定ニ違反スルコトヲ得ス」是等モ亦明  
カニ政府ノ仰セラレタコトトハ矛盾シテ居ル、遺留分ト云フコトニ付テハ二  
分ノ一ヲ減ジラレナイ、是等ノコトハ西洋トハ正反對デ、此點ニ付テハ民法  
ニ於テハ誠ニ其イ點デアラウト思フ、此民法ノ法律ノ精神ト云フモノハ、此家  
督相續ト共ニ……此家督財產ト云フモノト共ニ相續人ニ讓渡スト云フコトヲ  
根柢ニ致スノデアアル、併ナガラ一部ヲ處分スルト云フコトハ例外デスカラ問  
題ニナラスト思フ、次ニ又斯ウ云フコトガアリマス、今ノ家督相續ト遺產相  
續ト云フ別ニ付テ、又考ヘテ見マスト云フト、成ル程政府ノ仰セラレタガ如  
ク、家督相續ト云フコトト遺產相續ト云フコトトハ別デアアル意味モナイデハ  
ナイ、ソレハ家督相續ノ場合デハ、成ル程財產ガ移ツテ行クト云フコトハ、遺  
產相續ノ場合ニハ成ル程サウ云フコトガアル、金ト云フモノハ家ヲ繼グト云  
フコトト別問題デアアルト云フコトハ明カニ規定サレテアル、サウ云フ風デア  
リマスカラシテ、ドウモ私ノ疑ヒマスノハ、日本ノ民法ヲ能ク解釋シテ、  
相續篇ヲ能ク解釋シテダ、サウシテ此家督相續ヲ重ンズルト云フコトカラ  
見マシタナラバ、サウ云フ點ニナリマスガ、是ガ矢張り大ニ矛盾ノ點ニ又ナ  
ルノデアアル、次ニ又斯ウ云フコトヲ政府委員ノ方ガ言ハレタノデアアル、一  
圓茲ニ財產ノアルモノハ年ニ二十圓拂ヒサヘスレバ宜イノデアリマスカラ、  
今度ノ五割減ト云フコトニ付キマシテハ何等ノ苦痛ヲ感ジナイ、財產ト云フ  
コトニ付テハ少シモ苦痛ヲ感ジナイノデアアル、即チ此故ニ家督相續即チ家ヲ  
潰スト云フコトハナイ、家督相續ニハ關係ハナイ、斯ウ云フ結論デ置カレタ  
ヤウデアアルガ、是モ大ニ考物デアアル、今度ノ相續稅ヲ改正サレタモノデモ、  
一萬圓ニ付テ百圓ト云フモノハ拂ハナケレバナラス、萬已ムラ得ザル場合ニ、  
五箇年間ニ保證人ヲ立テテ延バスト云フコトニナル、原則ハ矢張り一時ニ拂  
フ、サウシテ五年デ拂フト云フコトハ從……變則デアアルノデスカラ問題ニナ  
ラス、所ガ一萬圓有ツテ居ルモノガ、年ニ百圓拂フト云フコトガ困難デアアルヤ  
否ヤト云フ問題ガ起ル、一萬圓有ツテ居ル者ガ、幾ラ年ニ這入ルカト云フト、  
日本デハ不動産ト云フモノガ重ナルモノデアアル、所デ勸業銀行ノ調べタ所ニ  
依テ、不動産ヲ有ツテ居ル財產家ノ利廻リト云フモノハ一年二分乃至四分、四

分ハ越エナイ、サウスルト一年ニ四百圓ニハナラヌ、四百圓ニナラヌモノヲ、百圓一時ニ取ラレル、是ハ決シテ小サイコトデハナイト思フ、今度ノ改正案デモナカノ親ガ死ニマシタ時ハ、非常ニ精神的ノ打撃ガアルノダカラ、其精神的ノ打撃ノ際ニハ、營業ニ於テハ頓挫ヲスルシ、又葬式ノ費用モ掛カル金ニ於テハ……其際ニ於テ百圓ト云フモノヲ取ラレルト云フコトハ非常ニ困難ナ問題デアルト思フ、丁度例ヲ喩ヘテ見マスト云フト、ズット衣服ヲ綿入デモ羽織デモ著テ居ル人間ガ、羽織一枚位取ツテモ何デモナカラウト云フガ、一枚取レバ風ヲ屹度引ク、ソレト同ジヤウニ不斷營業稅ト所得稅ト云フモノハ、覺悟シテ居リマスカラ取ラレテモ平氣デアリマスガ、急ニ羽織ヲ取ラレルト、如何ニ薄イ羽織デモ矢張り風ヲ引ク、矢張り家庭ト云フモノハ非常ニ心配ノ結果ヲ生ズルト云フコトハ明カナコトデアアル、日本ハ農業ト云フコトガ基本デアアル、奥田大臣ノ言ハレタ日本ハ農業ヲ盛ニ、産業ヲ盛ニシテ行カナケレバナラヌ、何トナレバ工業ノ發達ヨリ田地ヲ開墾スル度合ノ方ノモノガ少イノデアアル、日本ノ耕作地ノ殖エルコトハ徐々タルモノデアアル、サウ云フコトデアアルノニ、此際不動産ヲ基トシテ此財產ヲ拵ヘテ、ソレデ相續稅ヲ拂ヘストカ、何トカ云フヤウナ窮境ニ陥ツタナラバ、日本ニ於テ不動産ヲ有ツテ居ル者ハ詰ラス者ニナル、土地ハ詰ラスモノニナツテ、不毛ナ地ニナツテ來ルノデアアル、是ガ活キテ來ルト悲シムベキ現象ガ起ルト思フ、我々同族ノ者ニ於テハ世襲財產令ガ別ニアリマシテ、是ハ非常ナ窮屈ナモノデアツテ、戸主ノ人權、財產權ト云フモノガ認メラレテ居ルガ、是モ苦痛ノ方ニナルダラウト思フ、斯クノ如キ弊ヲ舉ゲルト云フト、結局相續稅ト云フモノハ廢スベキモノデアルト思フ、併ナガラ今日ノ唯今委員長ノ報告セラレタガ如ク、此相續稅法案ト云フモノニハ私ハ贊成ヲスル、何トナレバ五割デモ引イタ方ガ引カナイヨリ結構デアアル、併ナガラ近キ將來、一日モ早ク斯ノ如キ稅法ト云フモノハ、日本ノ家族制度ヲ破壞スルモノデアアルカラシテ、是ハ廢止スル方ガ然ルベキデアリマス、是ハ私ハ此稅法ニハ、無論今度ノ修正案ニハ贊成ハ致シマスガ、同時ニ相續稅其モノノ精神ニハ反對ヲスルト云フコトヲ一言申シテ置キマス

○公爵德川慶久君 此際チヨット申上ゲマス、委員長トシテ甚ダ申譯ナイ話デアリマスガ、委員ノ決議ヲシターツノ希望ガアルノデゴザイマス、之ヲ申落シマシテゴザイマスカラ、此際述ベマシテ差支ゴザイマセヌカ

○議長(公爵德川家達君) 御登壇ヲ請ヒマス

〔公爵德川慶久君演壇ニ登ル〕

○公爵德川慶久君 甚ダ申譯ナイコトデアリマシタガ、委員會ノ多數トシテ決議ヲ致シマシターツノ希望ガゴザイマシタガ、之ヲ申落シマシタカラ此際附加ヘテ置キマス、此相續稅ノ課稅物件タルモノガ動産ノ場合ニ於テハ本法制定ノ當時大藏大臣ノ訓令モアルニ拘ラズ、器具、骨董等、細ナル點マデ立入リテ課稅スルコトガ往々アル、政府當局ニ於テハ、稅務官吏ニ向テ尙十分訓戒ヲ與ヘラレテ、將來ニ於テ訓令ノ趣旨ヲ能ク遵奉シ、此點ニ付テ寬大ノ處置アラムコトヲ希望ス、斯ウ云フ委員會ノ決議トシテノ希望ガアッタノデゴザイマス、之ヲ申落シマシテ甚ダ申譯ガゴザイマセヌデシタ、茲ニチヨット附加ヘテ置キマス

○議長(公爵德川家達君) 他ニ御發言モナイト思ヒマスカラ採決ヲ致シマス、委員長ノ報告ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 過半数ト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第六、大嘗祭齋田ノ土地免租ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告

大嘗祭齋田ノ土地免租ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正三年三月十八日

右特別委員長

伯爵正親町實正

貴族院議長公爵德川家達殿

〔伯爵正親町實正君演壇ニ登ル〕

○伯爵正親町實正君 唯今議題ニ上リマシタ所ノ大嘗祭齋田ノ土地免租ニ關スル法律案ノ委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告イタシマス、本案ハ本年十一月京都ニ於テ行ハセラレマス所ノ大嘗祭ニ御供ヘニナリマス所ノ新穀ヲ作リマスルガ爲ニ、勅定サレマシタ所ノ齋田ニ對シテ、總テノ租稅ヲ免除サレルト云フ案デゴザイマス、登極令ノ第八條ニ「大嘗祭ノ齋田ハ京都以東以南ヲ悠紀ノ地方トシ京都以西以北ヲ主基ノ地方トシ其ノ地方ハ之ヲ勅定ス」ト斯ウゴ

ザイマス、故ニ此度勅定ニナリマシタ所ノ悠紀ノ齋田ノ所在地ハ愛知縣碧海郡六ツ美村デゴザイマシテ、主基ノ齋田ノ方ハ香川縣綾歌郡山田村デゴザイマス、ソレノ段別ハ四段歩餘ニナツテ居リマス、無論此免租ハ大正三年度分限リデ、一年限リデゴザイマスデ、此大嘗祭ト申スノハ、勿論國家ノ大典デゴザイマスカラ、古來ヨリ此齋田ニ對シテハ總テ免租ニナツテ居リマス、故ニ此度モ右ノ古典ニ則ツテ免除セラルルコトニナリマシタノデゴザイマス、委員會ニ於キマシテハ之ニ對シテ二三ノ質問ガゴザイマシタガ、其他何等ノ討論モナク、全會一致ヲ以テ可決イタシマシテゴザイマス、此段御報告申上ゲマス、本案ハ唯今申上ゲマシタ如ク、極メテ簡明ナ案デゴザイマス、且誠ニ芽出度キ案デモゴザイマスカラ、何卒讀會ヲ省略シテ、全會一致ヲ以テ速ニ御可決アラムコトヲ希望イタシマス

○伯爵寺島誠一郎君 贊成

○伯爵大原重朝君 贊成

〔其他「贊成」ト呼フ者多シ〕

○議長(公爵德川家達君) 唯今ノ正親町伯爵ノ讀會省略ノ動議ニハ十分定規ノ贊成者ガアッタト認メマス、正親町伯爵ノ讀會省略ノ動議ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 本案ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 過半数ト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第七、……

○伯爵松平直之君 此議案ノ報告ハ都合上、延期シタイト思ヒマス、議事日程カラ御削除アラムコトヲ希望イタシマス

○子爵曾我祐準君 贊成

○伯爵寺島誠一郎君 贊成

○伯爵林博太郎君 贊成

○議長(公爵德川家達君) 松平伯爵ノ要求ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕  
○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第八、印紙稅法中改正法律案、第九、印紙稅法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

印紙稅法中改正法律案

右本院提出案及送付候也

大正三年三月十七日

衆議院議長奥繁三郎

貴族院議長公爵德川家達殿  
印紙稅法中左ノ通改正ス

第五條ニ左ノ一號ヲ加フ

一 産業組合ヨリ其ノ組合員ニ發スル通帳

附則

本法ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

印紙稅法中改正法律案

右本院提出案及送付候也

大正三年三月十七日

衆議院議長奥繁三郎

貴族院議長公爵德川家達殿

印紙稅法中左ノ通改正ス

第四條中「一倉荷質入證券 印紙稅三錢」ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

一物又ハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券 印紙稅三錢

第五條中「一金高五圓未滿者ハ金高記載ナキ又ハ運送契約ニ依ラサル送狀」

ヲ「一運送狀以外ノ送狀」ニ、「一金高五圓未滿者ハ金高記載ナキ又ハ」ノ下

「非營業者ニ發スル賣買仕切書」ヲ「委託賣買ニ依ラサル賣買仕切書」ニ改ム

附則

本法ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(公爵德川家達君) 此兩案ハ同一委員ニ付託シテ御異存ゴザイマセヌカ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ガナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス

〔東久世書記官朗讀〕

印紙稅法中改正法律案外一件特別委員

- 伯爵島津 忠磨君 男爵北大路 實信君 男爵黑田 長和君
- 男爵岩倉 道俱君 男爵東郷 安君 辰馬吉左衛門君
- 由雄 元太郎君 堀 正一君 高崎 三重郎君

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十、運河法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

運河法中改正法律案

右本院提出案及送付候也

大正三年三月十七日

衆議院議長奧繁三郎

貴族院議長公爵德川家達殿

運河法中左ノ通改正ス

第二十一條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第二十二條 本法ノ適用ヲ受クル運河ノ用地ニシテ免許條件ニ依リ官有ニ歸屬シタルモノハ之ヲ運河經營者ニ下付スルコトヲ得

○議長(公爵德川家達君) 特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス

〔東久世書記官朗讀〕

運河法中改正法律案特別委員

- 侯爵花山院 親家君 子爵松平 乘長君 小野田 元瀨君
- 男爵千秋 季隆君 男爵尙 順君 男爵本多 政以君
- 德富 猪一郎君 由雄 元太郎君 木本 源吉君

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十一、明治三十七八年戰役ノ爲損害ヲ被リタル者ノ救恤ニ關スル法律案、衆議院提出、第一讀會

明治三十七八年戰役ノ爲損害ヲ被リタル者ノ救恤ニ關スル法律案  
右本院提出案及送付候也

大正三年三月十七日

衆議院議長奧繁三郎

貴族院議長公爵德川家達殿

第一條 明治三十七八年戰役ノ際陸軍徵發内命ニ基キ航行中敵艦ノ爲損害ヲ被リタル船舶又ハ其ノ積荷ノ所有者ニ對シテハ本法ニ依リ救恤金ヲ下付ス

第二條 前條ノ救恤金ハ四萬圓以内トス

第三條 本法ニ依リ救恤金ヲ受ケムトスル者ハ大正三年七月三十一日迄ニ申請スヘシ

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(公爵德川家達君) 特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス

〔東久世書記官朗讀〕

- 明治三十七八年戰役ノ爲損害ヲ被リタル者ノ救恤ニ關スル法律案特別委員
- 子爵樋口 誠康君 子爵五辻 治仲君 黑岡 帶刀君
- 男爵原口 兼濟君 男爵内田 正敏君 男爵藤井 包總君
- 男爵山内 長人君 福永 吉之助君 磯邊 包義君

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十二、國有土地森林原野下戻法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

國有土地森林原野下戻法中改正法律案

右本院提出案及送付候也

大正三年三月十七日

衆議院議長奧繁三郎

貴族院議長公爵德川家達殿

國有土地森林原野下戻法中左ノ通改正ス

第一條 第一項中「明治三十三年六月三十日迄」ヲ「大正三年十二月三十一日迄」ニ改ム

第二條ニ左ノ一號ヲ加フ

七 入會地ニシテ國有ト認ムヘカラサルモノ

○議長(公爵德川家達君) 此法案ハ過日委員ニ付託セラレマシタ同ジ法案ノ

特別委員ニ付託シテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十三、不動産登記法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

不動産登記法中改正法律案  
右本院提出案及送付候也

大正三年三月十七日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長奥繁二郎

不動産登記法中左ノ通改正ス

第二十七條中「又ハ相續」ヲ、「相續又ハ法人ノ合併」ニ改ム

第二十八條ノ二中「又ハ相續人」ヲ、「相續人又ハ合併後存續スル法人若クハ合併ニ因リテ設立シタル法人」ニ、「相續ニ因ル」ヲ「相續若クハ法人ノ合併ニ因ル」ニ改ム

第四十一條中「相續」ノ下ニ「又ハ法人ノ合併」ヲ加フ

第四十二條中「登記權利者又ハ」ヲ「登記權利者若クハ」ニ、「身分」ヲ「相續又ハ法人ノ合併」ニ改メ、「相續人」ノ下ニ「又ハ合併後存續スル法人若クハ合併ニ因リテ設立シタル法人」ヲ加フ

第二百二條ノ三中「又ハ相續人」ヲ、「相續人又ハ合併後存續スル法人若クハ合併ニ因リテ設立シタル法人」ニ、「相續ニ因ル」ヲ「相續若クハ法人ノ合併ニ因ル」ニ改ム

第二百三條中「又ハ相續人」ヲ、「相續人又ハ合併後存續スル法人若クハ合併ニ因リテ設立シタル法人」ニ、「相續ニ因ル」ヲ「相續若クハ法人ノ合併ニ因ル」ニ改ム

第二百五條中「被相續人」ノ下ニ「若クハ合併ニ因リテ消滅シタル法人」ヲ加フ  
第二百六條中「被相續人」ノ下ニ「若クハ合併ニ因リテ消滅シタル法人」ヲ加フ

○議長(公爵徳川家達君) 特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス

〔東久世書記官朗讀〕

不動産登記法中改正法律案特別委員

子爵本多 忠敬君 子爵毛利 高範君 子爵池田 政時君  
河村讓三郎君 男爵島津 隼彦君 男爵福原 俊丸君  
田島竹之助君 細谷巖太郎君 土居 通博君

○公爵徳川慶久君 此際議事日程變更ノ動議ヲ提出イタシマス、其理由ハ營業稅外數件ノ特別委員ニ付託ニナリマシタ地租條例中改正案竝ニ國稅徵收法中改正案ハ昨日委員會ニ於テ決定セラレタノデアリマス、今日此減稅案ガ數件日程ニ載テ居リマスカラ、旁、會期モ切迫シテ居リマスカラ、今日此際議事日程ヲ變更サレテ、此二案ヲ此場合ニ於テ議決セラレムコトヲ望ミマス、何卒諸君ノ御同意ヲ得タイト存ジマス

○子爵曾我祐準君 贊成

〔其他「贊成」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 唯今ノ徳川公爵ノ議事日程變更ノ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、諸君ニ御諮リヲ致シマスガ唯今追加セラレマシタ兩案竝ニ議事日程第十四、第十五、是ハ同一委員ニ付託セラレマシタカラ、採決ハ無論別々ニ致シマスガ、委員長報告ハ同時ニ煩ハシテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ是ヨリ地租條例中改正法律案、國稅徵收法中改正法律案、織物消費稅法中改正法律案、通行稅法中改正法律案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長報告

地租條例中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正三年三月十九日

右特別委員長

公爵徳川 慶久

貴族院議長公爵徳川家達殿

國稅徵收法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正三年三月十九日

右特別委員長

公爵徳川 慶久

貴族院議長公爵徳川家達殿

織物消費稅法中改正法律案

右否決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正三年三月十八日

右特別委員長

公爵徳川 慶久

貴族院議長公爵徳川家達殿

通行稅法中改正法律案

右否決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正三年三月十八日

右特別委員長

公爵徳川 慶久

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔公爵徳川慶久君演壇ニ登ル〕

○公爵徳川慶久君 唯今日程ニ上テ居リマスル四案ヲ順次ニ御報告申上ゲマス、此地租條例中改正法律案竝ニ國稅徵收法中改正法律案ノ二案ハ密接ナ關係ガアリマスルカラ、是ハ同時ニ一括シテ申上ゲマス、此法案ノ意味竝ニ其内容等ニ付キマシテハ、或ハ質問等ニ付キマシテハ總テ之ヲ速記録ニ讓リマス、唯其減稅ノ額ニ付テ一言茲ニ申上ゲマスレバ、地租ニ於テハ二厘減、即チ二百四十五万五千圓デゴザイマス、國稅徵收法ノ改正ニ依リマシテ、市町村ニ交付スル金額ガ二百三十七万六千圓デゴザイマス、大體委員會ニ於キマシテハ、此二案ヲ何等異議ナク、議論モナクシテ之ヲ可決シタノデアリマス、而シテ此國稅徵收法ニ關係シマシテ、委員會デ決議ニナリマシターツ

ノ矢張り希望ガゴザイマス、ソレハ此歳出ノ増加ニ關係スル案ハ、之ヲ議院ヨリ提出シナイコトヲ以テ原則トスルノガ適當デアルト信ズル、斯ノ如キコトヲ屢、議院ヨリ提出スルヤウナコトガアルト、或ハ財政ノ基礎ヲ危クスルヤウナコトモアルカラ、此國稅ノ徵收法ハ政府ガ同意ヲシテ居ラレルカラ、是ニハ委員會ハ同意ヲスルケレドモ、成ルベク斯様ナ國庫ノ負擔ヲ増加スルト云フヤウナ案ハ、政府カラ提出シテ貫ヒタイト斯ウ云フ希望デゴザイマス、大體二案ニ付キマシテノ經過ハ斯ノ如キモノデゴザイマス、引續キマシテ織物消費稅ノ改正ニ付キマシテ御報告ヲ申上ゲマス、委員會ハ本案ヲ否決シタノデゴザイマス、否決イタシマシタルガ故ニ、其理由ヲ少シク申上ゲテ置ク必要ガアルデアラウト思ヒマス、此案ニ付テハ特ニ此案ノ内容ニ付テ少シク申上ゲテ置ク必要ガアルト思フノデアリマス、本案ハ政府ノ言フ所ニ依リマスルト云フト、純然タル減稅案デハナイノデアリマス、唯織物業者ガ組織シテ居ル組合ニ向ッテ、徵收上或必要ヲ設備ヲナストカ、或ハ事務ヲ扱ッタルカ云フヤウナ場合ニ、是ニ交付金ヲ與ヘヤウト云フ案デアッテ、其金額ハ十三萬二千圓デアリマス、故ニ純然タル是ハ減稅案ト見ルコトハ出來ナイノデアリマス、世間デ或ハ之ヲ以テ純粹ノ減稅案ノ如ク誤解シテ居ル向ガアリマシマス、是ハ其誤解ヲ生ジタ所以ハ、政友會ノ減稅經畫トシテ發表セラレテ、同稅ニ對シテ徵收上ノ手心ニ依テ、二百三十万圓ヲ減ズルト云フト聲明セラレタ故デアラウト思ヒマス、大體案ノ内容ハ斯様ナモノデアリマシテ委員會ハ之ヲ否決シタノデアリマス、其理由ハ大體ニ於テ織物稅ノ減ズルト云フトコトハ趣意ニ於テ之ヲ贊成スル、殊ニ消費者、殊ニ貧民ノ需要ノ多イ木綿織物等ニ對シテノ負擔ヲ輕減スルナラバ、至極御同意デアルケレドモ、此交付金ト云フトコトハ必シモ斯ウ云フ純粹ノ減稅ノ目的ニ副ハヌノデアルト云フトコトガ一ツト、織物業者ノ組合ニ於テ、此納稅ノ事務ヲ扱フト云フトコトハ、彼等ノ詰リ織物業者ノ便宜ノ爲ニ本來ヤッテ居ルノデアッテ、必シモ此場合交付金ヲアル必要ハナカラウト云フヤウナ意味ニ於テ、本案ハ否決セラレタノデアリマス、併ナガラ茲ニ一言委員會ガ熱心ニ政府ノ意ノ在ル所ヲ突止メタ一事ガアルノデアリマス、是ハ強チ茲ニ御報告スルコトハ無駄デナイト信ジマスカラ、茲ニチヨット申上ゲテ置カウト思ヒマス、ソレハ如何ナル租稅ヲ問ハズ、徵收上ノ手心ニ依テ減稅ヲスルト云フトコトハ、將來ニ非常ニ惡ルイ結果ヲ及ボスデアラウ、若シ斯様ナ財源ガアルナラバ、手心ニ依テ之ヲヤラズ

ニ、兩院ノ協議ヲ經テ明カニ稅率ヲ變更シテ減稅ヲスルガ宜カラウ、若シ一度此手心ニ依テ減稅ヲスルト云フ端ガ開ケルナラバ、將來ニ於テ手心ニ依テ增稅ヲスルト云フコトガ起ツテ來ルノデアリマスカラ、是ハ甚ダ危險ナコトデアアル、故ニ政府ハ此手心ニ依テスルト云フコトニ對シテハ如何様ニ考ヘテ居ラレルカト云フコトヲ明カニ突止メタノデアリマス、政府モ此點ハ委員會ト即チ同感デアツテ、手心ニ依テ徵稅ヲシテ、手心ニ依テ減稅ヲスルト云フコトハ、甚ダ危險デアルト云フコトヲ言ウテ居ラレルノデアリマス、併シ若シ此案ガ通過シタ場合ニ、政府トシテハ減稅ハシナイケレドモ、負擔ノ公平ヲ期スル爲ニ、或ハ少シ高イモノハ之ヲ低ナルカモ知レヌ、即チ整理ト云フ意味ニ於テ多少ノ減額ヲ見ルコトニナルカモ知レヌト言ウテ居ラレタノデアリマス、委員會ハ此政府ノ手心ニ依テヤルト云フコトニ不同意デアルト云フノデアリマスルカラ、此點ハ即チ委員會モ安心シタ點ナノデアリマス、唯是ハ委員會ノ質問ノ點デアリマスルケレドモ、餘程將來ニ影響ノアル一點デアリマスルカラ、特ニ茲ニ一言申シテ置ク必要ガアラウト思ヒマス、大體右ノヤウナ經過ヲ以チマシテ、委員會ハ此案ヲ否決シタノデアリマス、是カラ通行稅ノ改正ニ付キマシテ續イテ御報告ヲイタシマス、本案ノ趣意ハ既ニ御承知デアリマス通りニ、學生、兵卒、勞働者ニ對シテ通行稅ヲ低減スルト云フコトガ趣意デアリマス、ソレカラ尙通行稅ヲ徵收納付シタル營業者ニ交付金ヲ與ヘル、此二點デアリマス、金額ニ致シマシテ前者ハ四十一万六千圓デアリマス、後者ハ四万一千圓デアリマス、是等質問等ノ細イ點ハ總テ速記録ニ讓リマシテ、之ヲ否決セラレタ理由ヲ茲ニ申上ゲテ置キマス、大體此學生、兵卒、勞働者等ニ對シテ減稅ト云フコトハ非常ニ贊成デアアル、ケレドモ實際此法律ニ依テハ、ドウモ旨ク其目的ヲ達スルコトガ出來ナイノデアラウ、法律ノ拙劣ナ爲ニ、其減稅ノ目的ガ達セラレナイト云フコトガ一ツノ理由デアリマス、第二ニ尙此拙劣ナ法律ハモウ少シ政府ヲ練ツテ戴キタイ、政府デ之ヲ練ル、衆議院提出案デアアルカラ練ル暇ガナカッタカモ知レヌカラ、尙ハ十分ニ練ツテ其目的ヲ十分ニ達セラレルヤウニ致シテ戴キタイ、例ヘバ或ハ進ンデ十錢以下ハ免稅スル、或ハ十哩以内ハ免稅スルトカ、或ハ其他ニ良イ方法ガアルナラバ其方法ヲ攻究シテ戴キタイ、斯ウ云フ意味モ否決ノ一ツノ理由デアリマス、大體右ノ理由ヲ以テ本案ハ否決セラレタノデアリマス、尙一ツ茲ニ申上ゲテ置キマスガ、個人ノ御希望デアツテ、委員會ノ決議トシテ希望シタ

コトデアアリマセヌケレドモ、チヨット茲ニ申上ゲテ置カウト思ヒマス、成ルベク下層ノ者即チ貧民等ニ對スル減稅ハ、以來減稅ノ行ハレル機會ガアリマシタナラバ、決シテ之ヲ見通スコトナクシテ實行セラレルヤウニシテ貫ヒタイト云フ意味ヲ希望ヲ述ベラレタ方ガアッタノデアリマス、是ハ委員會ノ決議トシテノ希望デアゴザイマセヌケレドモ、茲ニ申上ゲテ置ク價值ガアルト存ジマスルカラ一言御報告ヲ致シマス、大體御報告ハ斯ノ如キ次第デアリマス

○議長(公爵德川家達君) 諸君ニ於テ御異議ガゴザイマセネバ、此際採決ヲ致シマスノハ、地租條例中改正法律案並ニ國稅徵收法中改正法律案、此兩案ト御承知ヲ請ヒタウゴザイマス、唯今議長ノ申述ベマシタ兩案トモ委員長ノ報告ニ……聊カ宣告ヲ誤リマシタ、唯今議長ノ申述ベマシタ兩案トモ第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 過半数ト認メマス

○子爵曾我祐準君 直チニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望シマス

○伯爵大原重朝君 贊成

○議長(公爵德川家達君) 曾我子爵ニ伺ヒマスガ、無論兩案トモデスカ

○子爵曾我祐準君 左様デアリマス

○議長(公爵德川家達君) 曾我子爵ノ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ兩案ノ第二讀會ヲ開キマス、兩案全部ヲ問題ニ供シマス、委員長ノ報告ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 過半数ト認メマス

○子爵曾我祐準君 直チニ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望シマス

○伯爵大原重朝君 贊成

○議長(公爵德川家達君) 直チニ兩案ノ第三讀會ヲ開イテ御異存ゴザイマセ

ヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 直チニ第三讀會ヲ開キマス、兩案トモ第二讀會ノ決議通りデ御異存ゴザイマセヌカ  
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 次ニ問題ニ供シマスノハ、織物消費税法中改正法律案並ニ通行税法中改正法律案、此兩案デアリマス、此兩案ノ第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス  
起立者 無シ

○議長(公爵徳川家達君) 起立者ナシト認メマス、故ニ兩案トモ否決セラレマシタ

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十六、公共團體ノ管理スル公共用土地物件ノ使用ニ關スル法律案、衆議院提出、第一讀會ノ續、委員長報告  
公共團體ノ管理スル公共用土地物件ノ使用ニ關スル法律案  
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也  
大正三年三月十八日

右特別委員長

谷森 眞男

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔谷森眞男君演壇ニ登ル〕

○谷森眞男君 公共團體ノ管理スル公共用土地物件ノ使用ニ關スル法律案ノ委員會ノ結果ヲ御報告ライタシマス、本案ハ衆議院ノ提出ニ係ルモノデゴザイマスルガ、政府モ同意セラレテ居リマスルノミナラズ、必要ヲ感ゼラレテ居ルノデアリマス、從來公共團體ノ管理シテ居リマス所ノ公共用ノ土地物件等ニ付キマシテ、使用者ニ撤去ヲ命ジマスルヤウナ場合ニ於キマシテ、其命令ヲ聞カザルコトガ往々アルノデゴザイマス、然ルニ公共團體ニ於キマシテハ、強制權ヲ有シテ居リマセヌ故ニ、斯様ノ場合ニ如何トモ致シ方ガナイト云フヤウナコトニナルノデゴザイマス、依テ公共團體ニ強制權ヲ有セシムルト

云フノ案デアリマス、ソレデ審査イタシマスルニ、既ニ此東京市ノ市區改正ナドニ於キマシテハ、市ノ行政廳ガ強制執行ヲスルト云フコトガ出來ルコトニモナッテ居リマスカラ、左様ナ例モアリマスルニ依リマシテ、審議ノ上本案ハ可決シテ宜シイト云フコトニ委員會ハ決リマシテゴザイマス、此段ヲ御報告ヲ致シマス、是ハ極ク簡單ナ案デモゴザイマスルカラ、讀會省略テ可決セラレムコトヲ希望イタシマス

○子爵野村益三君 賛成

○黒岡帶刀君 賛成

○伯爵寺島誠一郎君 賛成

○伯爵大原重朝君 賛成

○男爵徳川厚君 賛成

○男爵北大路實信君 賛成

○議長(公爵徳川家達君) 本案ノ第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス  
起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半数ト認メマス

○伯爵大原重朝君 直チニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○伯爵正親町實正君 賛成

○議長(公爵徳川家達君) 直チニ第二讀會ヲ開クト云フ、大原伯爵ノ動議ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス  
起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半数ト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ第二讀會ヲ開キマス、全部ヲ問題ニ供シマス、全部、委員長報告ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス  
起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半数ト認メマス

○伯爵大原重朝君 直チニ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望シマス

○伯爵正親町實正君 賛成

○議長(公爵徳川家達君) 直チニ第三讀會ヲ開イテ御異存ゴザイマセヌカ  
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 直チニ第三讀會ヲ開キマス、第二讀會ノ決議通リ  
デ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 來ル二十三日ニ開會ヲ致シマス、議事日程ハ決定  
次第、本院彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是デ散會ヲ致シマス

午前十一時五十三分散會

